

出会いは どこに？

～ネットでの出会いの歴史と今～

「出会う手段はどこに
向かっていくのか？」
「出会いは
どこにあるのか？」

「出会い系さんまい！」 管理事務局

出会いは どこに？

～ネットでの出会いの歴史と今～

「出会う手段はどこに
向かっていくのか？」
「出会いは
どこにあるのか？」

「出会い系さんまい！」 管理事務局

出会いはどこに？ ～ネット での出会いの歴史と今～

「出会い系さんまい！」 管理事務局

目次

はじめに

Chapter.1 インターネット普及以前の”出会い”

①テレクラ

②伝言ダイヤル

③ダイヤルQ2

④ツーショットダイヤル

⑤ポケベルの登場とプリクラブーム

⑥「じゃまーる」の功績

Chapter.2 インターネット登場後の”出会い”

①インターネットの歴史

②出会い系サイトの登場

近所さんを探せ！

a c c h a n . c o m 恋愛お見合い (旧：あっちゃんラブラブお見合い)

I S I Z E じゃまール

エキサイトフレンズ (旧：エキサイト出会い)

③ガラケーの発展

④出会い系サイト規制法の成立

⑤スマートフォンの登場

Chapter 3. 出会いはどこに？ —現在のネット
トで出会える場所—

①出会い系サイト

②メル友掲示板

③チャット

④SNS

⑤SNS掲示板

⑥マッチングアプリ

⑦オンライン婚活

Chapter 4. 出会い系サイトと僕

①黎明期

②目的は変わって

③リアルタイム性を求めて

④やはり年齢には勝てないか・・・

⑤そしてこれから

Chapter 5. ちょっと変わった私的体験談

①OL 2人組はあの信者だった！

②ちょっと珍しい職業の方々

その1 「経営者」

その2 「ネットカフェ難民」

その3 「AV女優」

その4 「女子大生」

③ニアミスいろいろ

その1 「高校の同級生の妹」

その2 「小学校の同級生」

その3 「職場の同僚」

おわりに

出会いは どこに？

～ネットでの出会いの歴史と今～

「出会う手段はどこに
向かっていくのか？」
「出会いは
どこにあるのか？」

「出会い系さんまい！」 管理事務局

はじめに

まず初めに「出会いはどこに？」というタイトルは、” 出会う手段はどこに向かっていくのか？” という意味と” 出会いはどこに行ったらあるのか？” という2つの意味を込めて付けました。

パソコンやスマホが一般的な生活必需品となり、どこでもインターネットに接続することが可能となっている現代では、ネットを介した友達作り、恋愛、結婚もごくごく一般的になりつつあります。

それによりにネットでの出会いが原因となる事件や犯罪が世間をにぎわすことも多くなり、場合によってはネットで出会うことが” 悪” であるかのような扱いを受けることも多々あります。

しかし、ネットは出会うための一つ的手段にすぎず、日本では古来より様々な手段で出会いを構築し、また、それによる事件・犯罪も発生していて、決してネットでの出会いだけが特別な出会いではないのです。

ただ誤解しないでいただきたいのは、本書は決してネットでの出会いを推奨しているものではございません。確かにネットで出会うということは、顔や身元もよく分か

らない人と会うということは、それに抵抗を感じる人が少なくありませんし、犯罪を誘発する大きな原因になると思います。

一つだけ言いたいのは、基本的に人と出会うというのは何かしらのリスクが潜んでいて、ネットでの出会いも例外ではないというだけで、それ以上のものではないと思います。

ですので、本書をお読みの方にお願ひしたいのは、ネットで出会うにしても、ネット以外で出会うにしても最後は本人のリスクヘッジと危機管理が重要になり、そのことを踏まえて出会うという行為に望んでいただきたいと思います。

ネットでの出会いはまず” 出会い系サイト” の登場から始まります。

そもそも” 出会い” とは何なのでしょう。

純粹に” 出会う” ということは、人と人がお互い初めて会うことを指しますが、人とモノ・出来事などの出会いのように、モノや出来事を擬人化して人が初めて触れたり体験したりすることを” 出会う” と表現することがあります。

それでは、” 出会い系サイト” とは一体何なのでしょう
か。

W i k i p e d i aによると、「出会い系サイト」と
は、インターネットを通じた『出会い』を仲介するウェブ
サイトの総称である。」と定義されています。

また、2003年9月13日に施行された通称「出会い
系サイト規制法」は、正式名称を「インターネット異性
紹介事業を利用して児童を誘引する行為の規制等に関す
る法律」と表され、出会い系サイトとは異性の出会いを
仲介するインターネットサービスであると解釈できま
す。

昨今では、異性の出会いのみならずLGBTを考慮した
同性向けの出会い系サイトも存在しますが、本書で
は、” 出会い” を異性間の出会いと捉え、また” 出会い
系サイト” を異性間の出会いを仲介するインターネット
上のサービスと捉えたいと思います。

本書は「出会い」を扱う書籍になりますが、巷に無数に
出回っている「出会い系サイト攻略」「ナンパ指南」の
ような実用書ではございません。まあ、このような出会
い系の攻略本がどのくらい実用できるものなのかかなり
怪しいものですが。本書では、「ネットでの出会い」を

一つのサブカルチャーと捉え、その歴史や現状を解説していきます。

「出会い系サイト」という言葉が誕生して四半世紀以上が経過した昨今ですが、現在に至るまでに出会い系サイトを利用するための媒体の変化、出会い系サイトを取り巻く環境の変化、事件など波乱万丈に満ちたドラマがありました。そして現在ではネット上においてもコミュニケーションの取り方に多数のバリエーションが存在し、それらの本質的な部分では「出会い系サイト」なのですが、もはやその言葉だけでは一括りにできないような状態になっています。そのため、本書においても「ネットでの出会い」という言葉で括って話を進めていきたいと思ひます。

本書では、まずインターネットを介した出会いが発生する以前の1980～90年代の出会いサービスを紹介し、それらのサービスとインターネットの技術が融合していく様を解説します。その後現在に至るまでに登場した”ネットであらう手段”を紹介し、今”出会いたい人”がどのような手段を用いて出会っているのか分析していきたいと思ひます。

そして、最後に2016年に発行しました「出会い系ざんまい」から一部転載の上、加筆修正を行ったものになりますが、インターネット黎明期よりいわゆる「出会い

厨」として活動してきた筆者”僕”の出会い厨歴と、その中で体験したちょっと変わった”出会い”をご紹介します。と思います。

本書を昭和・平成・令和の”出会い”の歴史解説書として、またはネットで”出会い”求める人の道しるべとしてご愛読いただければ幸いです。

最後に少しだけ宣伝させてください。

本書を執筆するにあたっての費用は、以下の出会い系関連サービスによる広告収入の一部を当てさせていただいております。

本書が少しでも読者の皆様にお役に立てたのであれば、以下のサービスもぜひご利用ください。（すべて無料のサービスです。）

[「完全無料出会い系サイトの紹介屋さん」](https://de aiz.info/)

(<https://de aiz.info/>)

それでは、「ネットでの出会いの歴史と今」を探しに行きましょう！！



Chapter.1 インターネット普及以前の”出会い”

人類が誕生した時から子孫を残すことが人類の本能として刷り込まれており、「男女が会うこと」は人類の繁栄には必要不可欠なものでした。そのため、「出会い系サイト」が登場する以前からも男女の出会いに関する風習やサービスは無数に存在しました。日本においては、古来より「お見合い」の文化があり、江戸時代には、親戚やご近所さん、職場の上司等を仲介して結婚相手を決めるという現代のお見合いのイメージに近い形が完成していたそうです。

また、明治時代には「高砂業」という仲人の仕事をする人が現れました。”高砂”は夫婦愛と長寿を愛で、人世を言祝ぐ大変めでたい能の品目であり、そこから採られて高砂業と言われるようになりました。そして、これがいわゆる「結婚相談所」の原型になりました。

「結婚相談所」は、今日では真剣に結婚を考える人たちのためのサービスとして非常に多くの大小の業者が参入し、仲人が相手を紹介する方法の他に、インターネット

を利用したマッチングサービスを提供する等、出会い系サイトとの区別が難しいサービスも出てきています。

1980年代に入ると、高額な入会金を払い、仲人とコミュニケーションを図りながら真剣に結婚相手を探すための「結婚相談所」とは異なり、若者が比較的 low 料金で気軽に交際相手を探すためのサービスが登場するようになりました。

この章では、まだインターネットが構築されていない、もしくは、まだ一般的でなかった時代、よって「出会い系サイト」も存在しない時代に、若者たちがどのような手段で出会いを求めていたのかを時系列に紹介します。

①テレクラ

テレホンクラブ（通称：テレクラ）は Wikipedia によると以下のように記述されています。

「電話を介して女性との会話を斡旋する店。通称はテレクラ。おおよそ、個室で女性から店に電話がかかってくるのを待ち、その女性との会話を楽しむもの。個室にはティッシュペーパーが配置するなどされており、テレフォンセックスが行われる場合もある。基本的にはそれだけなのであるが、女性との交渉次第では機会を改め店の

外でデートを行うことや、性行為を行うことも可能である。」

テレクラが初めてサービスを開始したのは、1985年のことです。テレクラのシステムは、男性がテレクラの店に行って時間ごとの料金を払い、案内された個室の中で女性から電話がかかってくるのを待つという形で、女性は、雑誌広告や街頭で配布されるティッシュ、道路・鉄道の駅付近の看板などでテレクラの電話番号を知り、電話をかけるという方式になっています。基本的には女性側はフリーダイヤルになっており無料で通話することができます。女性から電話がかかってきた際に、店によって、店員が順番に客に女性からの電話を回すシステムと、早く受話器を上げた客が電話をとることが出来るシステムの2種類が存在しています。

テレクラの登場と人気を博した背景としては、1985年の風俗営業法の改正が大きく影響しています。風俗営業法は正式名称を「風俗営業等の規制及び業務の適正化等に関する法律」と言い、1948年に制定された「風俗営業取締法」を改定した法律になります。1985年の風俗営業法の改正では、多くの娯楽施設や性風俗産業に大きな規制がかかることとなりました。例えば、18歳未満の未成年は、22時以降のゲームセンターへの立ち入りは禁止になり、ファッションヘルスやアダルトショップなどの性風俗店は営業する各都道府県公安委員会

に届出を行うことが義務付けられました。これにより多くの性風俗店が姿を消したと言われていています。テレクラは、この法律の抜け穴をかいくぐってできたサービスであり、現在に至っても風俗営業法における届け出の対象にはなっていません。（ただし、自治体の条例の中で規制されている場合があります。）

そのため、テレクラは、1985年の登場以降から、まずは新宿・渋谷を皮切りに全国に急速に店舗の数を増やしていくこととなりました。

女性は無料のフリーダイヤルで電話をかけることができることから、女子高生が遊び半分で電話をかけることも多くなり、はじめは遊び半分でも、男性と話をしているうちに打ち解けて相手に興味を持つようになり実際に会うということもしばしば起こるようになりました。1990年代前半には、テレクラは女子中高生の援助交際の温床になっていたとの説もあり、テレクラに対する批判も高まっていきました。

②伝言ダイヤル

前述のテレクラは男性が店まで赴いて、電話がかかってくるまで待機していないといけませんでした。そのため、そのような利用者にとってのデメリットを払拭し自

宅の電話で出会いの機会が作れるということで人気を博したのが伝言ダイヤルでした。

まず、伝言ダイヤルは、出会いを目的としたサービスでは決してありません。ただし、出会いを目的とした用途と非常にマッチしていたために出会いに利用されるようになりました。伝言ダイヤルは、1986年に当時のNTT（現NTTコミュニケーションズ）が開始したサービスで、6～10桁のボックス番号＋4桁の暗証番号を入力すると、伝言の録音・再生・追加録音を受けられるサービスです。オンラインで音声を預かってくれるパスワード付きの留守番電話と表現したらイメージしやすいでしょうか。

前述のとおり、伝言ダイヤルは、ただの留守番電話の機能に近い存在です。もともとは出先での連絡などの用途に向けたサービスであり、暗証番号を知っている人でないと伝言を残すことができないため基本的にはお互い知っている人同士のコミュニケーションのためのサービスと言えます。そのため決して男女の出会いを目的としたサービスではないのですが、しだいに出会いに利用されていくことになりました。

その仕組みはこうです。

- ・誰かが、出会い目的の伝言を吹き込むためのシンプルなボックス番号・暗証番号の伝言ダイヤルを開設する。

(これを「オープンダイヤル」と呼んでいました。)

- ・そこに出会い目的の人がメッセージと電話番号を吹き込む。
- ・また、別の出会い目的の人は、オープンダイヤルに録音されたメッセージと電話番号を聞き、録音した人に電話する。

オープンダイヤルは、” 1 1 1 1 1 1 1 1 1 ” や ” 1 2 3 4 5 6 7 8 9 0 ” のようなシンプルなボックス番号・暗証番号で開設していたため、利用者が適用に思いつくシンプルな番号を入力するだけで簡単に行き着くことができました。また、いろいろ語呂合わせの番号も登場し、その番号は口コミなどで広がっていきました。

語呂合わせの番号としては、以下の語呂を3回繰り返す” ~トリプル” というものが有名でした。

4 6 1 9 (ヨロシク)、4 9 1 9 (ヨクイク)、0 2 1 3 (オニイサン)、1 9 1 9 (イクイク)、0 7 2 1 (オナニー)、8 8 2 3 (ハヤブサ)、5 5 7 2 (ココナッツ)、8 0 8 3 (ヤオヤサン)、0 9 9 9 (スリーナイン)、3 7 5 1 (ミナコイ)、8 1 0 7 (ハテナ)

例えば、” ヨロシクトリプル” の場合、ボックス番号・暗証番号を合わせた番号は” 4 6 1 9 4 6 1 9 4 6 1 9 ” になります。

ただし、伝言ダイヤルは、1つの伝言は8時間経つと自動的に消去され、また1つのボックスにつき最大10件までしか録音できなかつたので、オープンダイヤルはすぐにいっぱいになって埋まってしまふという弱点もありました。

2016年に携帯電話やSNSなどの普及に伴い利用者が大幅に減少したことを理由に、伝言ダイヤル自体はサービスが停止されていますが、現在に至っては、災害用伝言ダイヤル（171）としてその仕組みが利用されています。

③ダイヤルQ2

1989年（平成元年）、平成の幕開けとともにNTTによってダイヤルQ2のサービスが開始されました。ダイヤルQ2は、電話による情報料代理徴収サービスであり、もともとニュースやテレフォン相談、ファンクラブ会員などに向けた有料情報提供（後世の有料メールマガジン）、のような一般サービスに利用されることを想定したサービスでした。しかし、ほどなく成人向け情報提供業者が目をつけ、男女間のおいせつな会話・音声の聴取サービスやツーショットダイヤル番組、テレフォンクラブ等を提供するようになると、世間からはダイヤルQ2＝成人向けサービスのイメージが浸透し始めるようになりました。

ダイヤルQ2のシステムは、電話による有料情報サービスの情報料金を、電話料金と一緒に回収するというもので、あとは普通の電話と変わりません。例えば、宅配業者に再配達依頼をするために電話をかけると自動で音声が出て、「集荷をご希望の方は1を」「再配達をご希望の方は2を」など案内が流れ番号のプッシュを促されたりすると思います。家電の修理の依頼等でサポートセンターに電話した場合も同様で、さらに選択した番号によってはオペレーターの人につながって会話することもあります。

これらの仕組みは業者側で自動音声応答装置というものを利用することで可能となっているシステムで、ダイヤルQ2も、この仕組みを利用することで、業者からの一方的な情報提供（ダイヤルQ2にかけると、一方的に音声が出るサービス）の他に、番号のプッシュや、人との会話が可能になっています。

ダイヤルQ2で、このような仕組みを利用してツーショットダイヤルという出会い系サービスを提供する業者が現れました。ツーショットダイヤルという出会い系サービスは、いろいろな手法を使って提供されていることになりましたが、ダイヤルQ2を利用したツーショットダイヤルは、男性は業者が提供するダイヤルQ2の電話番号に電話をかけ、フリーダイヤルで電話をかけてきた女性

と回線をつなげることで見知らぬ男女を会話させる仕組みになっていました。

男性が店まで赴かないといけなかったテレクラ、自宅で利用できるが、利用者数に制限があった伝言ダイヤル、これらの欠点が見事に補われ、まさに、自宅で利用できるテレクラという感覚でダイヤルQ2のツーショットダイヤルは、利用者を急速に拡大していきました。これに伴い、伝言ダイヤルと同様に、援助交際の温床になり、また、若年者が長時間利用したことによる数十万円から数百万円という高額な情報料が発生し、高額の利用料金請求などが社会問題となりました。

このような事態を受けてNTTでは、1991年に、ツーショットダイヤルを提供している業者に対して、Q2回線利用契約を更新しないように記載を行うこととなり翌年の1992年にはダイヤルQ2を利用したツーショットダイヤルのサービスは完全に消滅することになりました。

④ ツーショットダイヤル

ダイヤルQ2を利用したツーショットダイヤルのサービスについては前述したとおりですが、ツーショットダイヤルは他の手段を用いてのサービス提供もされています。おなじみのWikipediaでは、「ダイヤルQ

2、一般の公衆回線、国際電話回線を利用した男性有料・女性無料の双方向会話サービス。」と定義されており、一般の公衆回線や国際電話回線を利用したサービスも存在することが分かります。最近では、インターネットを利用したツーショットダイヤルのサービスも存在しています。

そもそも「ツーショット」ということはいつ、どのように生まれたのでしょうか。もともとツーショットとは、二人の人物を同一の画面におさめるクロースアップのことを言い、写真や動画の撮影技術の用語です。1987年にテレビ放送が開始された「ねるとん紅鯨団」という番組の中で司会をしていた”とんねるず”が男女のカップルのことをツーショットを表現し始め、ついには現代用語の基礎知識にも掲載されるようになり、一般的な若者言葉として浸透してきました。

ちなみにこの「ねるとん紅鯨団」では、”ツーショット”という言葉以外にも、”彼女（彼氏）いない歴〇年”や、”ちょっと待った”等の言葉に一般化しました。また、結婚または交際を希望する男女が一堂に会してカップル成立を目指すパーティーのことを「ねるとんパーティー」と呼び、パーティーの構成自体も当時は「ねるとん紅鯨団」を参考にしたものが多かった。現在に至っても、少しずつ改良が加えられているものの、パーティーの構成に大きな違いはなく、この番組が後の出

会い系サービスに与えた影響がいかに大きいかが分かります。

話を戻して、ツーショットダイヤルは、その名の通りツーショット（＝男女のカップル）を作るための出会い系サービスということになります。1989年にサービスが開始されたダイヤルQ2によるツーショットダイヤルのサービスは、最終的には、NTTの規制により1992年には完全消滅してしまいましたが、それに代わる形で、男性の利用料金の課金を銀行振込やクレジットカードによる決済を利用した利用ポイント数（1分100円。1ポイント）管理方式の一般の公衆回線経由のツーショットダイヤル事業に切り替えて事業を継続したり、男性側回線の課金に国外への通話を発生させた際の着信国側の通信会社からの払戻を利益原資とした国際電話回線を利用したりしました。後の1993年にイーステムが後払い方式（電話番号で会員登録させ、支払わないと督促がかかるしくみ）を開発し、これらが課金方法の主流となりました。

こうして、しばらくの間、どこからも規制されことなく安定してサービスを提供することができたツーショットダイヤルは、急速に男性の利用者を増やしていきましたが、一方でフリーダイヤルでもかけてくれる女性の数が圧倒的に少ないという事態に陥るようになりました。男性に長時間電話させることで利益を得るツーショットダ

イヤルの業者にとっては、死活問題となるため、女性オペレーターをアルバイトで雇い、一般女性のフリをして男性利用者と会話させるという対策を取るようになりました。今でいうサクラの出現ですね。サクラは、女性向けの求人誌等で募集され、自宅にしながらできる気軽なアルバイトとして多くの女性から人気だったと言われていました。

そのようなツーショットダイヤルのサービスですが、自治体による年齢確認を義務付けた条例の制定や、2002年の風俗営業法の改正等により徐々に業者が減少していきました。とはいえ完全に消滅したわけではなく、今でも一定の人気がある出会い系サービスとなっています。

⑤ポケベルの登場とプリクラブーム

前述で1980年代後半から1990年代前半のテレクラ、伝言ダイヤル、ダイヤルQ2、ツーショットダイヤルと主に電話回線を利用した出会い系サービスについて紹介してきましたが、1990年代前半にはそれら業者が提供していた出会い系サービスとは違った出会いの手段も生まれ普及していくこととなりました。それを説明するための2つのキーワードがあります。一つが”ポケベル”、もう一つが”プリクラ”です。

”ポケベル”はポケットベルの略で、その歴史は意外と古く日本では、1968年に日本電信電話公社（現在のNTTグループ）によりサービスが開始されています。ポケベルがどのようなものかと言いますと、ポケベルに電話番号が割り当てられており、その電話番号に電話をかけるとポケベルに着信し、ポケベルから電子音が鳴ったり文字列を表示したりするというものでした。

サービス開始当初は、業務上で外出の多い営業職・管理職・経営者等をターゲットにしたサービスであり、ポケベルの機能としては、ポケベルに電話をかけるとポケベルから電子音が鳴るだけのシンプルなもので、ポケベルの持ち主は電子音が鳴ると、あらかじめ手決めていた（会社等の）電話番号へ電話をかけるというような使われ方をしていました。

1987年になると、ポケベルの電話番号の後に数字を打ち込むことで数字を送ることが可能になりました。これは、ポケベルに電話を掛けた側がポケベル所有者にかけてほしい電話番号を送ることを想定したサービスで、従来の電子音しか鳴らなかった時代にはあらかじめ決められた場所に電話するような使い方しかできなかったのに対して、複数の人からポケベルに連絡をもらい、それぞれの人に連絡を取ることが可能となりました。

このポケベルに数字を送れる機能は、仕事関係人には、当初の想定通りポケベルに電話番号を発信する使われ方をされましたが、一方で、主に女子高生等によって別の使われ方がされるようになりました。それは、数字の語呂合わせによってメッセージを送るというもので、例えば「14106」=「アイシテル（愛してる）」や「724106」=「ナニシテル（何してる?）」のような語呂合わせで相手にメッセージを送りあうことでお互いのコミュニケーションを取るようは使い方がされるようになりました。また、全国の書店では、ポケベル用の語呂合わせを紹介する書籍が多数販売されるようになり、ポケベル人気に拍車をかけました。

とはいえ、数字の語呂合わせのみでのコミュニケーションには限界があり、この時点では、ポケベルはまだ知人同士の簡易なコミュニケーションを取る手段でしかありませんでした。

1994年に文字（主にカタカナ）を送信できるサービスが本格的（一部の機種では1991年から可能であった。）に開始されるとポケベルの契約者が爆発的に増加することとなりました。文字の送信が可能になったことによりポケベルはオンラインでのコミュニケーション手段として十分に耐えられるような端末になり、このあと出会いのツールとして利用されていくこととなります。

しかし、そのためには2つ目のキーワードである”プリクラについて説明しなければなりません。

”プリクラ”とはプリント倶楽部の略で、ゲーム会社のセガとアトラス（共に現在はセガサミーグループの企業）が共同開発し1995年に全国のアミューズメントパークに登場しました。現在でもその後継機や類似機が存在し全国各地どこにも見かけるものなのでご存じの方も多いと思いますが、プリクラは自分の顔や姿をカメラで撮影して、シールに印刷された写真を得る機械です。現在は、写真を撮った後に写真の修整を施したり、シールではなく取った写真を画像データとしてスマホに送信したりと、機能に改良が加わっています。

プリクラは登場した当初は主に女子高生が自分や友達と写真を撮ってシールを作り、友達同士でシールを交換するような遊び方が主流でした。交換したシールを貼ってコレクションするための”シール帳”が販売されるようにもなりました。その後プリクラは男子高校生にも広がり、子供や社会人の利用も増えていきました。そのころのカップルにおいても、いわゆる”ツーショット”でプリクラを撮るのが流行るようになりました。

プリクラも登場当初は写真を撮って、好きなフレーム（枠）を選択して写真の上で重ねられるだけの機能しかありませんでしたが、プリクラブームにあやかって類似

機が多数登場するようになると、それぞれが機能に工夫を凝らすようになり、写真の上に好きな文字や手書きメッセージを載せたりすることができるようになりました。

また、この時期にプリクラやその類似機を設置していたアミューズメントパークでは、その隣に作ったシールを自由に張ることができる掲示板のようなものを設置するようになりました。その掲示板を利用して、プリクラの利用者はシールに自身のポケベルの番号を書いて友達募集するようになりました。”ベル友”という言葉も生まれ、今までの伝言ダイヤル、ダイヤルQ2、ツーショットダイヤルのような電話回線を主体とした出会いとはまた違った出会いの形が形成されていきました。

プリクラのシールは、アミューズメントパークの掲示板の他にもカラオケボックスや駅の掲示板などにも貼られるようになり、1990年代後半の”ベル友”ブームが訪れます。前述の通りポケベルの端末自体は受信専用であり、メッセージを送信するためには電話が必要だったため、学校では、休み時間のたびに、公衆電話に長蛇の列ができたなんて話もよく聞きました。

⑥ 「じゃまーる」の功績

出会い系サイトが登場する以前の出会いの方法として雑誌やファンクラブ等の会報誌を介した方法が存在します。1980～1990年代の雑誌や会報誌には「文通相手」を募集するコーナーを設けているものも多くありました。代表的なところで芸能雑誌『明星』や『平凡』などにも文通コーナーが存在しましたが、同じ雑誌を購入する共通の趣味の持ち主同士で文通相手を探すことが目的のコーナーですが、実際に会うこともありました。また、このコーナーから知り合った人が複数で集まることもあり、今でいう「オフ会」のようなものが開催されたりもしました。

そもそもの話ですが、雑誌の文通相手の募集コーナーから、お互いどのように連絡先を交換していたのでしょうか。答えは至ってシンプルです。そうです、雑誌に自宅の住所や電話番号を掲載していたのです。個人情報取り扱いが非常に厳しくなった現代ではとても考えられないことですね。このような文通相手を探すコーナーですが、当然この中には”異性が出会う”こともあるわけで、さらに恋愛に発展することもあるわけです。

雑誌の文通コーナーについて、最後に一つ、外せない事例を紹介しましょう。時代はずっとさかのぼりますが1971年に『薔薇族』という雑誌が創刊されました。これは男性同性愛者向けのいわゆるゲイ雑誌で、この雑誌にも文通コーナーはありました。そして、このコーナー

の一角には「百合族の部屋」という女性向け同性愛者向けの文通コーナーも設けられていました。ちなみに女性同性愛のジャンルのことを「百合」と言ったりするのは、この「百合族の部屋」からきていると言われていきます。1970年代といえば、まだまだLGBTに対してタブー視されていた時代だと考えられますが、このような雑誌が書店に並んでいたことには驚きですね。

話を戻しまして、いろいろな雑誌に設けられていた「文通コーナー」ですが、1995年にその専門誌と言えるべき雑誌が創刊されました。「じゃまール」という雑誌です。「じゃまール」は、個人間の物品の交換や売買、サークルへの勧誘、友達・恋人募集等、個人の情報発信を中心にした雑誌で、まさに現在のインターネット掲示板のような機能を雑誌上で展開したようなものでした。最初に「首都圏版」が創刊され、つづいて、「北海道版」「東海版」「関西版」「九州版」と地域別に創刊されていたのが特徴です。

じゃまールには、募集内容ごとに”～系”カテゴリが分けられていました。例えば、「ファッション系」や「音楽系」のようなジャンルがあったのですが、その中に「出会い系」というジャンルもありました。「出会い系サイト」という言葉は、じゃまールのこのカテゴリが語源になっていると言われていきます。”～敬”はさらにカテゴリが細分化されて「出会い系」の場合はさらに「おと

もだちから族」、「お付き合い族」、「ケッコン族」というサブカテゴリがありました。

この頃もまだ当然のように名前や住所、電話番号等を掲載する個人情報の取り扱いが非常にゆるい時代でした。

「じゃまール」は、今まで、雑誌毎に特定のジャンルの人しか集まらない文通コーナーと違い、いろいろな趣味を持った人、また純粹に友達や恋人がほしい人同士をつなげる場となり、雑誌上で展開した出会い系サイトであるといっても過言ではないと思います。

詳細は次の章で説明しますが、じゃまールが創刊された1995年といえば、パソコンの基本ソフト（OS）であるWindows 95が発売した年であり、“インターネット元年”と呼ばれた年でしたが、まだ、一般家庭でインターネットに触れる機会があった人はごく僅かでした。インターネット上に展開される「出会い系サイト」は1996年頃に登場していますが、ちょうどアナログな出会いの手段からデジタルな出会いの手段へと変化している過渡期に登場した「じゃまール」は、その橋渡し役を見事に演じたように思えます。

「じゃまール」は、インターネットが普及しだすと、インターネットが持つ個人情報発信・閲覧の手軽さと即時性には勝てず、ネット上でのコミュニケーションが盛んになっていくにつれて発行部数も減少していきました。

そして2000年に休刊となりました。1999年には雑誌版の販売と並行して「I S I Z Eじゃまール」というインターネット上のサービスが展開されましたが、こちらも2001年にサービスが終了しています。

最後に、「じゃまール」と同時期に創刊された競合雑誌を紹介しておきましょう。1996年に関西で「わあでい」という雑誌が創刊されました。創刊号の表紙の見出しには「売りたい、買いたい、出会いたい！」と印刷されていますが、この言葉から分かる通りコンセプトはほぼ「じゃまール」と変わりませんでした。「わあでい」は、「じゃまール」の休刊とほぼ同時期に全国へ展開されるようになりますが、やはりインターネットの圧倒的な力には及ばず、こちらも間もなく休刊することとなりました。

出会いは どこに？



Chapter. 2 インターネット登場後の”出会い”

出会い系サイトの歴史を語る上でターニングポイントとなる年がいくつかあります。その一つが1995年です。

1995年は、パソコンの基本ソフト（OS）であるマイクロソフト社のWindows 95が発売された年です。旧バージョンから地道にバージョンアップを重ねながらユーザー数を増やしていたWindowsですが、バージョン4となるWindows 95では、初心者が扱いやすいユーザーインターフェース、ネットワーク接続機能の標準搭載等により爆発的にユーザー数を増やすこととなります。Windows 95の発売をきっかけにパソコンを購入した人も多く、1995年を”パソコン元年”と呼んだりしますが、そこにはもう一つの”元年”が存在しました。

それが”インターネット元年”という言葉です、Windows 95ではネットワーク接続機能の標準搭載により、Windows 95がインストールされたパソコンを購入してプロバイダーと契約すればだれでも簡単にイ

ンターネットに接続することができるようになりました。そのため、この年にパソコンの利用者が激増したと同時にインターネットの利用者が激増することになりました。

「出会い系サイト」は、Wikipediaによると、「インターネットを通じた「出会い」を仲介するウェブサイトの総称である。」と定義されているようにインターネットが存在しなければ「出会い系サイト」も存在するはずもなく、出会い系サイトの歴史を語る上でインターネットという言葉がいかに重要かが分かるかと思えます。この章では、「出会い系サイト」のサービス提供プラットフォームであるインターネットの歴史から始まって、そこから出会い系サイトがどのように始まって、黎明期の出会い系サイトがどのように変化していったのかをまとめています。

①インターネットの歴史

出会い系サイトのサービス基盤となるのは「インターネット」です。出会い系サイトの歴史はインターネットの歴史と共に歩いていくため、まずはインターネットがどのようなものなのかをご理解いただく必要があります。

今では一般的な用語としてすっかり定着してしまった「インターネット」ですが、これがどのようなものなの

か正確に説明できる人はどのくらいいるのでしょうか。

ここでは、「インターネット」の歴史を簡単に紐解いていきながら、これがどのようなものなのかを理解していただければと思います。

そもそも、インターネットを利用するための”コンピュータ”そのものは、1940年代から70年代にかけて現在のコンピュータの原型が構築されたと考えられます。このようなあいまいな書き方をした理由として、コンピュータはある年に突然発明されたというわけではなく、長い歴史の積み重ねにより徐々に発展していったものであるということが挙げられます。コンピュータを日本語に訳すと「電子計算機」になるのですが、この言葉に従ってコンピュータは”電気を利用して計算を行う装置”であると解釈すると、1948年に開発されたThe Babyというコンピュータが最初であると解釈できると思います。そこから、1970年代にかけて急速にコンピュータのテクノロジーが発展してきました。

コンピュータの発展と並行して電気通信網が発展していきます。19世紀後半にはモールス信号を送受信するための電気通信網が世界中に張り巡らされ、1950年代になってコンピュータを利用した当時のコンピュータを利用した通信技術が確立していきました。

1969年にアメリカ国防総省といくつかの大学と研究機関が中心となって「ARPANET」というコンピュータネットワークの運用を開始しました。

この通信網の特徴として「パケット交換方式」という技術が挙げられます。それまでの通信方式は「回線交換方式」という電話の回線網のような方式を採用しており、通信局から通信局まで1対1での通信しかできなかったのに対して「パケット交換方式は」では、複数対複数のコンピュータの通信が可能であり、今までの通信技術から大いに飛躍した技術でした。この技術は現在のインターネット通信技術の根本をなすもので、「ARPANET」がインターネットの起源であると言われることが多い所以です。

1981年頃に「TCP/IP」というネットワーク上でデータ通信を行う際の規約（英語でプロトコルと言い、伝送手順等を定めたもの）が確立しました。Transmission Control Protocol / Internet Protocol」の名の通り、「TCP/IP」の規約に則った通信のことを現在では”インターネット”と呼んでいます。

1989年にHTTP通信の規約とその規約の中で通信するためのデータであるHTMLの規約が発明されました。HTMLについてはご存じ方も多いと思いますが、

WEBサイトを構築するためのプログラム言語の一種です。1990年からこれらの運用が開始され、ここからいわゆるWWW (World Wide Web) であるとかホームページであるとかの歴史が始まることになりました。その後、1994年から1995年にかけて、一般向けのインターネット接続業者 (ISP) やWindows 95に代表されるような個人でのインターネット接続環境、WEBサイトを閲覧するためのブラウザが次々とリリースされ、”インターネット” が世間一般に浸透していくことになりました。

インターネットの通信網を利用したサービスは、WWWだけではなく、現行に代表される企業間での通信やEメールの送受信、オンラインゲームへの利用など様々なものが存在し、今日まで独自の発展を遂げています。出会い系サイトのサービスを展開するための中心技術であるWWWにおいても、とりわけインターネット元年と呼ばれる1995年から急速に反転しており、当時は、固定のページを表示するしかできなかつたものから、現在では、GoogleMapやブラウザゲームのようにリアルタイムに操作できるようなサイト構築ができるようになっていきます。出会い系サイトのサービスにおいては、このWWW技術の発展と共に歩んできたと言っても過言ではなく、WWWの進化と共に出会い系サイトのサービスも進化していきました。今後も出会い系サイトのサービス基盤がWEBサイト上であるかぎり、WWWの発展

と共に発展し、また一方で今日ではスマートフォンの出会い系アプリに代表されるようなWEBサイト以外を基盤とした出会い系サイトが登場するようになり、これらにおいても独自の進化を遂げていくものと思われます。

②出会い系サイトの登場

インターネット上に出会い系サイトが登場した時期は明確ではありません。出会い系サイトは、個人の趣味として無償で立ち上げられたのが最初だと考えられます。インターネット元年と呼ばれる1995年には、すでに無数の出会い系サイトの存在が確認されており、それより過去に散発的に出会い系サイトが立ち上がっていたものだと思います。そのため、誰が、いつ、どのような形で出会い系サイトが始めたのかは正確に分かりません。

この頃の出会い系サイトはかなりシンプルなものが多く、メル友募集の掲示板が一つだけ設置してあるサイト、男女別やいくつかのカテゴリ（メル友募集、友達募集、恋人募集）別などせいぜい多くても六つくらいの掲示板が設置されただけのサイトが多く存在しました。当然、会員登録や年齢確認などもなく、掲示板にメールアドレスや電話番号等を書き込み、それがそのまま表示されるような作りになっていました。

内閣府調査によると1995年の一般家庭へパソコン普及率は15.6%でした。インターネット普及率については、総務省の調査が1996年から実施されておりこのとき3.3%という数字が記録されていますので、1995年ではさらに低いと思われます。このような状況の中でインターネットの利用可能な人たちはどのような人だったのかと申し上げますと、インターネット接続環境が整備された大学・専門学校等の学生、もしくは同じく早期からインターネット接続環境が整備されていた企業の社員が多くを占めていたのではないかと考えられます。また、インターネット人口が低いことから、まだまだインターネット上でのビジネス展開も難しい時代でした。その結果、この時代は、掲示板への荒し行為や、個人情報の抜き取り、いわゆる”サクラ”も存在せず、今のようにインターネット利用者がセキュリティ面を強く意識する必要もなく、出会いサイト自体もセキュリティ対策はほとんどされていないというおおらかな時代でした。

1995年を境に様々なWEBサイトが立ち上がりました。その中には、出会い系サイトや、出会い系サイトではないですが”出会い”を目的とした使われ方がされたサイトも多数ありました。以下にそれらのサイトをいくつかをご紹介します。

近所さんを探せ！

「ご近所さんを探せ！」は、ご近所づきあい、井戸端会議、友達や仲間探しのような、個人間のコミュニケーションができる場をインターネット上に構築することを目的として1995年に立ち上がったサイトです。会員登録すると、まず自身のプロフィールと住んでいる場所をざっくりした地図上に点で登録するという当時として非常に画期的な仕組みでした。これにより地図から近所の会員を探ることができて、コミュニケーションを取ることができました。また、日記を読み書きする機能、いろいろなジャンルの掲示板の機能があったり、「サークル」と言ういわゆる「コミュニティ」の機能があったりと現在のSNSに近いサービスが当時から提供されていました。多くのSNSと同様に出会い目的としたサイトではなく、出会い目的での利用は固く禁じられていたが、やはり出会いを目的として利用している人がかなりの割合を占めていました。

「ご近所さんを探せ！」は、2018年9月28日にサービスを終了しました。1995年から23年もの長きにわたってサービスが提供され続けましたが、その代償としてシステムが古くなってしまい改修が困難になりつつあることと、他の多くのサービスが、インターネット上での個人間の交流の場を提供している現況を踏まえてサービスの終了が決定されたとのこと。 「ご近所さんを探せ！」は、まだ出会い系サイトが商用サービスとして提供されることが少なかった1990年代後半にイ

ンターネット上での出会いの中心となっていたサイトの一つでした。その機能は、前述の通り、現在のSNSに通じるところがあり、運営者の先見の明と共に高い技術力、運営能力のもと展開されていたサービスであったといえます。

a c c h a n . c o m恋愛お見合い（旧：あっちゃんラブラブお見合い）

「a c c h a n . c o m恋愛お見合い」は1996年にサービスが開始され、日本で最初のインターネットマッチングサイトであると自称されています。サービス開始当時の名称は「あっちゃんラブラブお見合い」でした。サービス開設当初は、利用者が登録したプロフィールや好みなどから異性の利用者との相性が表示されるようになっていたことが目新しい機能でした。この機能は今でも実装されています。

現在は、無料会員、準会員コース、正会員コースという3つのコースがあります。無料下院のコースは登録するだけで利用できますが、他のユーザーとのメール受信・返信はできませんが、初めて送信する相手には定型文書しか送れなかったり、1日に送信できるメールの量が著しく制限されたりしています。準会員コースは、同じく無料で利用できるコースですが、免許証などの身分証明書の提示が求められます。これによってインターネット異性紹介事業の法律に従い利用者が18歳以上であること

を確認することができサイト内の穂と運土の機能を利用することができるようになります。免許証などの身分証明書の提出方法は、写真に撮ってアップロードするだけで良いので比較的登録しやすいコースです。正会員コースは、有料のコースで身分証明書の提示方法も郵送に限定されます。また、独身証明書や年収を証明できる書類を一緒に送付することで、プロフィールに記載されている婚姻歴や年収に偽りがないことをアピールすることができるようになっていきます。

I S I Z E じゃまール

1999年にリクルートが自社のポータルサイトである「I S I Z E」というサイトを開設しました。これに合わせて「I S I Z E」のコンテンツの一つとして、当時雑誌として展開していた「じゃまール」のインターネット版というべき「I S I Z E じゃまール」のサービスが開始されました、この時すでにインターネット上には様々な出会い系サイトが出現していて、本家の「じゃまール」の売り上げも下火になりつつあった時期に当たります。雑誌としては華々しく登場した「じゃまール」でしたが、「I S I Z E じゃまール」は、数多くの出会い系サイトの一つとして埋もれてしまい、紙媒体休刊の1年半後、2001年12月にサービス提供を終了しました。「I S I Z E」自体は今もリクルートによって運営されています。

エキサイトフレンズ（旧：エキサイト出会い）

「エキサイトフレンズ」は、検索エイトの「エキサイト」によって1999年にサービス提供が開始された出会い系サービスです。インターネットで友人や恋人を手軽に探せるサービスとして展開され、サービス開始直後は「エキサイト出会い」という名称で展開されていました。趣味や年齢から会員を検索したり、「サークル」というSNSのコミュニティのような機能を有していたりします。また、ミニメールというメール機能があり、これによって会員同士のコミュニケーションが可能になっています。

「エキサイトフレンズ」は、無料で利用できる機能も多いですが、まだやりとりをしていない相手へのミニメールの送信をするためには月額を支払う必要があり、出会い系サイトとして使用するためには事実上課金しないといけない仕組みになっています。他の多くの出会い系サイトにある男性のみ有料という仕組みとは異なり、男女共に有料会員が存在する点が特徴的です。現在は特に珍しくありませんが、出会い系サイトがまだ何やら怪しげなサービスであるかのようなイメージが強かった当時に大手の検索サイトがサービスに乗り出したことは非常に新鮮でした。また、この成功を受けて他の検索サイトや他業種からも続々と出会い系サイト運営に乗り出すこととなりました。例えば2002年には同じく大手検索サイ

トのYahooを運営母体として「Yahooパーソナルズ」（現在の「Yahooパートナー」）のサービスが開始されました。「エキサイトフレンズ」が比較的ライトな恋人募集等を中心としたサービスなのに対して、「Yahooパーソナルズ」は”趣味から出会える恋愛・婚活サービス”というキャッチコピーの通り婚活にも重点を置いたサービスになっています。余談にはなりますが、その後、2003年に「エキサイト」から「エキサイト婚活」という婚活が中心となるサービスが開始されています。

運営母体が大手検索サイトであるため、知名度の高さと、しっかりと行き届いた管理体制でサービス開始直後から爆発的に会員数を増やしていきました。また、2000年には携帯電話からもアクセスすることが可能になり、当時の会員の平均年齢は16～22歳とかなり低めの状態になっていました。これにより、公序良俗に反するメッセージや、他人の電話番号を自己PRなどに勝手に使用するなどのトラブルも多く、運営母体のエキサイトにて都度システム改良がなされていましたが、利用者の減少に伴って2022年にサービスを終了しました。

③ガラケーの発展

インターネットの普及から少し遅れて携帯電話の普及、その後、携帯電話からのインターネット接続が可能とな

りました。

パソコンと比較すると普及率が格段に大きかった携帯電話から、出会い系サイトを利用させようとする業者が登場するようになります。

当時の携帯電話のことをスマホと対比させてガラケー（ガラパゴス携帯）と呼んでいます。もちろん当時はそんな言葉はありません。

携帯電話の歴史は古く、1980年代に”自動車電話”が登場し、今の携帯電話の仕組みが出来上がりました。これは、自動車に搭載できる電話であり、会社社長や、役員などのエグゼクティブ、忙しいエリートビジネスマンのステータスとなりました。

まもなく”ショルダーホン”が登場しました。これは肩にかけて持ち運ぶもので、重量は3Kgありました。携帯電話と呼ばれるものは、1987年に登場し、この時に電話の重量は900gありました。

その後、携帯電話の小型化、通信方式のアナログからデジタルへの移行、端末および通信料の低価格化を経て、1990年代後半には、ついにインターネットへの接続が可能となりました。この頃に携帯電話の普及率は50%ほどです。つまり日本人の2人に1人は携帯電話を持つ

ていたということになります。普及率100%（一人で複数の端末を所持する人がいる状態）を超える現在と比較すると圧倒的に少ないですが、それでも、普及率30%だったパソコンと比べるとはるかに大きい数字でした。

携帯電話からのインターネットアクセスには制約が多く、データ量が大きいサイトを見ることができない、通信した量に応じて通信料が課せられ、また通信料も高額だったことから、携帯電話専用のサイトが登場するようになりました。

「出会い系サイト」も例外ではなく既存のパソコン向きサービスが携帯電話にも対応したり、携帯電話からアクセス専用のサービスも登場したりするようになりました。

この頃から「出会い系サイト」の利用者が爆発的に増え、未成年者の利用も広がっていきました。出会い系サイト自体も大手の業者のものから個人の運営のものまで乱立するようになり、その勢いにも増して利用者の数も広がっていったため、当時の出会い系サイト業者は出会い系バブルと言わんばかりにかなりの収益を上げていたので社ないでしょうか。

ガラケーの登場により、このガラケーがいくつかの”出会い”のターニングポイントを生み出しました。まず、そもそもですが、1人1台の電話所持によりいろいろな人と気軽に電話ができることができるようになりました。今までは家族と一緒に暮らしているような人は、恋人との電話は気まずい思いをしながら電話をしていたのではないかと思います。（家庭用の電話機に子機が付いていれば幾分かはナシかもしれませんが）

増してやネットで出会った人との電話を家族の前でするなんて、どう考えてもあり得ませんよね……。携帯電話の普及はそのような電話の文化をガラリと変えていくことになり、”出会い”安い環境づくりに大きく貢献しました。後には、携帯電話でメールのやり取りができるようになり、ネットで知り合った”見知らぬ人”と声で会話するのに抵抗がある人も多い中、気軽にいつでもどこでも会話できる手段が提供されることになり、一層出会いの促進が促されることになりました。

次にガラケーにはカメラが付くようになります。2000年にシャープが発売した携帯電話に初めてカメラが搭載され大ヒットを納め、その後各メーカーから続々をカメラ付きケータイが発売されるようになりました。当時 J - P h o n e（現ソフトバンク）では「写メール」というサービスを開始し、撮った写真をメールに添付して送れるようになりました。この「写メール」は「写メ」

という言葉で広く利用されることになり、メールで写真を送ることを「写メを送る」って言ったりしていましたが、今でも死語にならずに結構利用されている言葉だと思われる。

このように写真を送れるようになったことによりネットで知り合った人の姿を実際に会う前から確認することが可能になりました。

このように携帯電話は急速に「出会い」の間口を広げていきましたが、前述したとおり、この頃の携帯電話からのインターネット接続の通信料は非常に高価であり、定額制でなかったため、月の利用料が何十万になるような人も出てきました。一方で携帯電話の利用者はもともと社会人や大学生が多かったのですが、それが高校生や中学生、小学生にまで拡大し、国民1人の1台の時代が到来します。「パケ死」という言葉が登場し、携帯電話の通信料が払えない人が出てくるようになり、それを補うために援助交際をする女子高生も出てくるようになりました。そして、ついには、トラブルや性犯罪などの事件も多発するようになり、2003年には「出会い系サイト規制法」という法律が制定されました。これは、18歳未満の児童を性行為目的で誘い出す書き込みをインターネット上で行なうと行為などを禁じ、罰則化したものですが、このような規制が設けられる中でも、「出会い

系サイト」の利用者の増加、トラブル・事件の増加は止まることはありませんでした。

ここでガラケーでの”出会い”を語る上で外せない出会い系サイトを紹介します。かつて「スタービーチ」（略して”スタビ”）という出会い系サイトが存在していました。スタビはNTTドコモのiモードのサービスが開始された1999年に開設され主に携帯電話向けの無料出会い系サイトとして運営されていました。スタビは利用方法の手軽さや出会いやすさ、匿名性の高さなどもあり2000年代の出会い系サイトの中心であったと言っても過言ではありません。もちろん、スタビでの出会いに起因した事件・犯罪も多数ありたびたびニュースとして取り上げられていました。そのような状況の中で、2008年に行われた「出会い系サイト規制法」の大改正の影響を受け2009年に閉鎖されてしまいました。完全無料の出会い系サイトとして運営されたスタビは、この「出会い系サイト規制法」の大改正に対応しきれなかったものと思われます。「出会い系サイト規制法」については、別章で解説します。今でもスタビを懐かしむ声が多くあり、その恩恵にあずかろうとしているのか”スタービーチ”の名がついた出会い系を目的とした掲示板も多く見受けられます。もちろん本物のスタービーチは全く関係ないサイトしかありませんのでご注意ください。

ガラケーからスマホに移行する少し手前では、SNSというジャンルのサイトが確立し、もともとは出会いを目的としたサービスではないのですが、人間同士のコミュニケーションのためのツールであるがために「出会い」との相性が良く、またmixiやFacebook空前のSNSブームにより利用者が爆発的に増え、通常の出会い系サイトより出会えることとなり、出会い系目的の人がこれらSNSに流れ込んで行くこととなります。SNS業者も出会い系サイト代わりに使用されないように必死に対策を行っていたようですが、ほとんど無意味に終わっていたのではないのでしょうか。

④出会い系サイト規制法の成立

ここでネット上での出会いの在り方に重要な関わり方をした歴史の教科書的なお話をおきましょう。

ネットで「出会い」のサービスを提供する場合には、現在においては注意すべき点があります。それは、「出会い系サイト規制法」に触れないよう運営しないといけない点です。

「出会い系サイト規制法」は、「ネットでの出会い」を求める人口が爆発的に増え、ついには事件や犯罪まで発生するようになったしまったことへの対策として制定さ

れたものになりますが、その土台として「風俗営業法」
（略して「風営法」）というものがあります。

まずは、この「風営法」とはどのようなものなのかから説明させていただきます。

「風営法」は、正式名称を「風俗営業等の規制及び業務の適正化等に関する法律」といい、制定は1948年とかなり昔からある法律です。

当時の風営法は、風俗営業に関する営業時間や営業場所、風俗サービスの利用（就業）年齢に関する決まりを定めたものになります。風俗店を学校や病院の近くに作ってはいけないという話は有名ですね。また風俗のお店は未成年の人は利用できないし従事することもできないのは現代の人達にとっては感覚的に当然のことだと思います。これらの決め事は、この風営法によって定められています。

1984年には、風営法の大改正が行われました。この時改正されたのは、風俗店の営業時間の短縮化と風営法が適用できるサービスの拡大であり、今まではいわゆる「接待と伴う飲食店」（キャバレーやクラブ、今ならキャバクラもですね）やソープランド、パチンコ店、雀荘、ゲームセンターなどが、規制の対象でしたが、のぞき部屋、ファッションマッサージ店などが規制の対象と

して付け加えられました。風営法制定後、風俗店は時代と共に新たな業種が登場し、そのたびに風営法の規制対象として付け加えられていくこととなりました。

1998年、2度目の大改正が行われます。出張マッサージなど無店舗型の営業や、インターネットでのアダルトビデオ送信営業が規制対象となり、この改正により、デリヘル（デリバリーヘルス）形態の営業が可能となりました。風俗に詳しくない方向けに説明しておく、デリヘルとは性的サービスを行う女性従業員を利用者の自宅やホテルに派遣してサービスを行う無店舗営業の形態を取っており、営業側としては無店舗のため経費が安く抑えられること、利用者側は、人と顔を合わさずに風俗を利用できること、また双方の利点として営業時間が店舗型とは異なり深夜24時以降（時間は各自治体の条例による）も営業が認められていることから都心部を中心に爆発的に増加しました。

2001年には、当時、児童買春の温床になっていたテレクラやツーショットダイヤルに対処すべく、18歳未満の利用禁止や、18歳未満を締め出すため、テレクラの利用者（男性・女性共に）全てに対し、運転免許証やクレジットカードなど18歳以上であることを示す身分確認を求めることが付けられました。もともと、風営法の規制対象外だったため急速に事業拡大がなされたテレクラやツーショットダイヤルでしたが、ここで規制の対

象となり、またインターネットの普及と共に現在では衰退傾向にあります。

ここまで「出会い系サイト規制法」の在り方にもかかわりがある風営法についてお話しましたが、風営法では最終的にテレクラやツーショットダイヤルのような出会いを仲介するような業種にも影響が及ぶようになりました。これを踏まえると「ネットでの出会い」においても一定の法整備されるのは至極当然のことであると思います。

それでは、いよいよ「出会い系サイト規制法」についてお話させていただきます。

「出会い系サイト規制法」は、正式名称を「インターネット異性紹介事業を利用して児童を誘引する行為の規制等に関する法律」とし、風営法よりさらに長く覚えにくい名称をしています。警察庁のサイトなんかでも「出会い系サイト規制法」と通称が使用されています。

「出会い系サイト規制法」は2003年に施行されインターネット異性紹介事業（要するに出会い系サービスの提供者）に対して以下の制約を設けました。

- ・ 18歳未満の児童が性交等の相手となるような誘発行為
- ・ 金品等の授受を伴う18歳未満の児童の異性交際を誘

発する行為

- ・ 18歳未満の児童の異性交際を誘発する行為

これらを要約すると、「性交渉の有無もしくは金品等の授受の有無にかかわらず、18歳未満の子供に対して出会いの募集をしてはいけないですし、18歳未満の子供からの募集も受け付けてはいけません。」ということになります。出会い系サイトから18歳未満の人間を徹底的に排除する法律ということになりますね。これを敗れはもちろん事業者への罰則として、「100万円以下の罰金刑」が課せられます

「出会い系サイト規制法」は事業者に対する法規制になりますが、もちろん利用者においても、18歳未満の児童と性交渉を行えば、淫行条例等で罰せられますし、会うだけでも未成年者誘拐罪になる可能性もあるので決して利用者側は何をしても良いというものではありません。

「出会い系サイト規制法」が制定された2003年当時、携帯電話が急速に普及した時期でありました。また、1990年にNTTドコモから「iモード」のサービスが登場し、携帯電話からインターネットが接続できるようになったのを皮切りに他のキャリアもそれに追従する形で携帯電話からのネット接続が一般的になりました。そのような中で、それまで携帯電話の利用者は社会

人や大学生が中心だったのですが、2003年頃には、高校生や中学生、さらには小学生のような18歳未満の子供にまで携帯電話の所持が広がっていきました。そうになると、子供が自分の携帯電話から出会い系サイトにアクセスし、また利用することも容易くなり、まだ自分自身のリスク管理もままならない状態の中で出会い系サイト利用し、大人の犯罪や事件に巻き込まれるようなことが度々起こるようになりました。当時の出会い系サイトや掲示板を利用すれば、18歳未満の子供が自分の意志で援助交際の募集を行い、お金を稼ぐこともできてしまい、これが社会問題に発展しました。

このような「ネットでの出会い」にまつわる社会問題の顕在化を背景に、「出会い系サイト規制法」は、出会い系サイトの利用に起因する児童買春、その他の犯罪から児童を保護するため制定された法律であると言えます。

2008年に大きな改正が行われます。この改正では、インターネット異性紹介事業者に対して公安委員会への届出が義務付けられたことと、利用者への年齢を確認することが義務付けられたことが大きなポイントになります。このような措置はテレクラやツーショットダイヤルに対して風営法で規定しているような内容と類似しており、利用者への年齢を確認については、出会い系サービスの事業者は例えば未成年者では契約できないクレジットカード決済を用いたり、運転免許証などの身分証明書

(コピーの郵送や、画像のアップロード等で対応)の確認を行ったりすることで対応されるようになりました。

「出会い系サイト規制法」は、インターネットの世界においては2008年の大改訂時に特に大きな変化をもたらしました。結論から言えば、無料で利用できる出会い系サイトが激減しました。それは、利用者にとっては身分証明書等の送付が必要になり手間がかかることと、事業者の方も薄利もしくは無償で運営していることも多いので、そこに身分証明書の確認作業が増えたり、そのためのシステム改修の費用が捻出できなかつたりするため、事業者・利用者の双方にとってかなりの負担になったためです。

一方で、有料の出会い系サイトでは、もともとクレジットカードでの決済を行っていることも多く、それが年齢確認を兼ねることになるのと、利用者としてもすでに利用費の支払等で、それまでも手間をかけて利用しているため身分確認の手間をあまり惜しむことがなかったと思われる。

そのため、2008年の「出会い系サイト規制法」の改正後は、有料の出会い系のサービスが主流になり、無料のサービスはごく一部になってしまいました。ただし個人で運営しているような「出会い系サイト規制法」に則らない無料サイトは今でもそれなりに存在し、やはり無

料ということからそれなりの利用者が利用していますが、個人経営で大々的に宣伝しているわけでもなく、それほど大きな利益も得ているわけでもないので摘発されるに生き残っているものと思われます。今後、18歳未満が絡んだ大きな事件などが起こった場合には、それにかかわったサイトは摘発される可能性はあるでしょう。

⑤ スマートフォンの登場

ガラケーにすっかり取って代わり日本国民の全世代で幅広く利用されているスマートフォンですが、もちろんガラケー時代の文化や資産を引き継ぎつつスマホの利点を生かした出会いの方法が確立されています。

日本でのスマートフォン普及のターニングポイントになったのは2007年のiPhoneが発売されたことがきっかけになりますが、日本で初めてスマートフォンが発売されたのは、2005年のことです。日本で初めてのスマホは、シャープとマイクロソフトが共同で開発したPHSでした。OSはWindows Mobileで、世界的にもiPhone (iOS) とAndroidの2強となっている現在ではすっかり影が薄れてしまったOSですね。

PCの世界では、WindowsがOSの世界をほぼ独占しており馴染みが深いということで、日本での初期の

スマホでは、Windows Mobileを搭載したものが次々と発売されました。しかし、このOSは”Windows”と冠こそ付いていてインターフェースも似てはいるのですが、アプリがWindowsと互換性があるわけでもなく、何よりタッチパネルは基本的に感圧式（画面をタッチペンで強く押すことで操作する。ニンテンドーDSなんかも同じ方式でした。）を想定し、細かい動作を強いられるものになっていました。一方で2007年に登場したiPhoneは、静電式のタッチパネルを採用し、画面を指で触れるだけで反応するとともに、それにマッチする洗練されたインターフェースを実現し、非常に使いやすい機種だったことと、当時の人たちから見て非常におしゃれなデザインだったことも相まって爆発的にヒットし、ここからスマホの歴史が始まりました。

並行してAndroid搭載のスマホも徐々にシェアを拡大していき、現在に至っては、ほぼガラケーからスマホに置き換わったといっても過言ではないでしょうか。

そのようなスマホが普及していく中で、ネットによる出会いも少しずつ変化を遂げていきました。

まず、ガラケーの時代に登場したmixiやFacebookのようなSNSですが、スマホ専用サイトも構築され、引き続きネットでのコミュニケーションの手段と

して大きなシェアを持っていました。加えてInstagramやTwitterのようなスマホにマッチしたサービスも登場し、またカカオトークやLineのような従来の電話（通話）やメールに代わるようなSNSも登場しました。Instagram、Twitter、カカオトーク、Lineに共通するのは、リアルタイムな情報を入手する手段でありバッグやポケットに入るインターネット常時接続端末であるスマホと非常にマッチしたサービスであると言えます。

スマホの登場からしばらくしてiPadに代表されるタブレットが登場します。機能的にはスマホとほとんど変わりませんが、スマホと比較して大画面であるため、PCの代わりに使用する人も増えてきました。

そのため、スマホまたはタブレットはみんな持っているけど、PCは持っていないか、持っているけどほとんど使わない層が増え、その結果、スマホアプリのみで展開される出会いサービスも登場しました。主にマッチングアプリと呼ばれるこれらのサービスではWEBブラウザ上で利用することはできるスマホやタブレットにアプリをインストールして使用する形態になります。アプリであることでサービスへのアクセスの手軽さや、いろいろな情報がプッシュ配信されることでサービスへアクセスしなくてもリアルタイムに最新の情報に触れることができるといった利点があり、一定の市民権を得ています。

オフラインでの友人でもそうですが、ネットで知り合った人とのコミュニケーションの手段については、L i n e やカカオトーク S k y p e などが主流になり完全にメールから置き換わった形になります。また、これらのアプリでは通話をすることができるため高い電話代を払って電話をする必要もなくなり、最近のMVMOの台頭や3大キャリア（NTTドコモ、a u、ソフトバンク）の通信料の格安プランの登場もあり、出会いに対する金銭的な負担がかなり軽くなったと言えますね。従来通り電話を多用する人向けには電話かけ放題のプランや、電話代が一切無料の会社まであるので、今、プライベートの電話代に3万円も使用する人はまずいないのではないかと思います。

さて、現在に至るまでのスマホによる出会いの状況はどのようなになっているのでしょうか？

結論から言ってしまえば、P C ~ガラケーの時代と比較してやや落ち着いた感があります。詳細の話は、C h a p t e r 3 で記述しますが、昔のように熱狂的に出会いを求めるような人が減ってきました。「出会い厨」という言葉に死語に近くなり、スマホ時代初期のころには、マッチングアプリを中心にスマホを利用した新しい出会いサービスも生まれましたが、その後は、昔ながらの大手出会い系サイト業者と、そのマッチングアプリ業者が今でも運営を続けており、新しい業者の参入はかなり減

りました。現代において、” 少子化” や” 若者の恋愛離れ” なんて言葉に代表されるように「出会い」そのものに興味がない人達が増えてきているのだと思われます。

一定の傾向として、L i n e でつながるためのライン掲示板は乱立し無料で利用できることから、それなりにユーザー数は多いのですが、” 業者” と呼ばれる書き込みや詐欺まがいの外国人の書き込みも多く、また、個人運営の掲示板が多く出会い系サイト規制法に則った対応もできていないため、正常に機能しているとは言えない状態です。メル友を募集するためのメル友掲示板は、かなり数が減り、こちらも個人運営が多く、出会い系サイト規制法に則った対応もできていない掲示板が多いのですが、” 業者” や外国人の利用は少なく比較的高齢者（50～60代）の利用が多いイメージです。コミュニケーションの手段として、若者はL i n e を利用し、年配の方は昔を変わらずメールを利用しているといった構図がはっきりと出ている結果です。

前述したとおり、I n s t a g r a m や T w i t t e r のような従来のSNSとは異なる” 写真” や” つぶやき” 等、コンセプトを明確に持ったSNSが登場し爆発的に利用者が増えました。これらもコミュニケーションの手段となりうるため、出会いの手段として利用されています。また、スマホでのオンラインゲームの普及か

ら、これも出会いの手段として利用されるようになりました。

現在のPC・スマホ向けのアプリやWEBサービスでは、サービス提供者と利用者、利用者と利用者の”双方向の情報発信”が重要なカギになっている場合も多く、PC・スマホのありとあらゆるサービスが出会いのきっかけになりうるといっても過言ではないのではないのでしょうか。



出会いは
どこに？

Chapter 3. 出会いはどこに？ —現在のネット トで出会える場所—

いよいよ現代のお話になります。現在は、PCもしくはスマホ・タブレットがインターネット接続の主流になっている時代ですが、“出会い”関連のサービスももちろんそれらをターゲットにされています。特にスマホについては、“出会い”のターゲットとなる10～50代の世代においては1人1台の所有率と言っても過言ではなく、また四六時中手元にあり常にインターネットにアクセス可能であることから“出会い”サービスの事業者もスマホからアクセスされることを重点においてサービス展開されていることも多いです。

インターネット黎明期～ガラケー時代の熱狂的な“出会い系”ブームは過ぎ去ってしまった感はありますが、WEB技術の進歩やスマホアプリでの展開等、“出会い”のサービスは機能的に進化していて、また今まで“出会い系”とひとくくりにされていたサービスも、その機能の違いにより一定のジャンル分けがなされるようになりました。

この章では、現在の” ネット出会い” としてどのようなサービスが展開されていて、どのように” 出会う” ことができるのかを解説していきます。

①出会い系サイト

まずは王道の「出会い系サイト」のお話からさせていただきます。前述の通り、出会い系サイトはインターネット黎明期からガラケーの時代にかけて、かつては個人運営で非営利の無料サイトが無数に存在していました。しかし、2003年に施行された「出会い系サイト規制法」の登場により無料サイトは徐々に数を減らしていき、まともなサイトの多くはいわゆる有料サイトがほとんどになっています。有料サイトについては後述するとして、この” まともなサイト” という点について解説すると、結論からは言えば、今でも無料サイトは存在します。

前述の通り、「出会い系サイト規制法」によって出会い系サイトの運営事業者は利用者の年齢確認が義務付けられており、広告収入などの薄利な運営を余儀なくされる無料サイトは運営面で非常に困難に直面しています。そのような点が” まともな” 無料サイトの存在が少ない大きな理由ですが、それでは” まともでない” 出会い系サイトとはどのようなものでしょうか。もうお分かりかも

しませんが、「出会い系サイト規制法」を無視して運営している出会い系サイトですね。

このようなサイトは個人での運営がほとんどで、広告等の宣伝もあまり活発に行っていないため、無料サイトとして運営しているにも関わらず利用者数が少ない場合が多いです。そのため、「出会い系サイト規制法」の無視していても警察の目に引っかかることなく今も運営できているのですが、掲示板の書き込み等についても野放しの状態になっているため、犯罪や詐欺まがいの書き込みも多いので利用の際には注意した方が良さそうです。

一方で、まともに運営されている無料の出会い系サイトもそれなりにあります。有料サイトや違法な無料サイトに比べたら圧倒的に少ないだけで、そもそもの出会い系サイトの母数が大きいいため、探せば、まともな無料の出会い系サイトもかなり出てきます。

それでは、有料出会い系サイトについて解説を進めていきましょう。現在「出会い系サイト」のサービスは掲示板機能を中心に、日記が書けたり、“つぶやき”ができたり、ソーシャルゲームができたりとSNSの機能を取り込み、“出会い”がテーマのSNSとしてサービス運営がなされているところが多いです。サイトによっては、現在大きく利用者数を伸ばしている「マッチングアプリ」と同等の機能を有しているものも出てきています。

大手の出会い系サイトとして「ワクワクメール」「ハッピーメール」「PCMAX」「イククル」「YYC」「ミントC! Jメール」「メルパラ」などがありますが、これ以外にもたくさんのお出会い系サイトが存在します。

ここで上げた5つの出会い系サイトは、主にガラケー利用者に向けたビジネスを中心に事業展開され、アフィリエイトの仕組みを利用して利用者を増やしてきました。アフィリエイトとは、WEBサイトの所有者がそのWEBサイトに広告を貼り、その広告を見る、もしくは広告のリンクからたどって商品・サービスの購入がなされた際にWEBサイト所有者に一定の代金が支払われる仕組みのことで、これらの出会い系サイトでも独自にアフィリエイトの仕組みを提供して、WEBサイト所有者に広告を貼ってもらい、その広告から出会いサイトの新規登録がなされることになった場合に、新規登録者1人当たり2000～4000円程度の報酬が支払われるようになっています。アフィリエイトの広告主は出会い系サイトに限らず多種多様の事業者の広告が存在しますが、出会い系サイトの広告は比較的報酬が高額なために、その広告を貼るWEBサイト所有者も非常に多いです。また、2008年に行われた「出会い系サイト規制法」の大改正により「スタービーチ」などの無料出会い系サイトが次々と消滅していく中、有料であるため年齢確認などの仕組みがほぼ出来上がっていたこれらの出会い系サ

イトに人が流れ込むことになり、ますます利用者を増やしていくこととなりました。

「ワクワクメール」は、もともとは九州で「ツーショットダイヤル」を運営していた事業者で電話回線を使った出会い系サービスが衰退していく中、iモードが登場し携帯電話からインターネット接続が可能になったのを機に「ワクワクメール」のサービスを立ち上げた経緯があります。「ハッピーメール」ももともと九州で「ツーショットダイヤル」を運営していた事業者による運営で、これら2つの事業者の社長は古くから親交があったようです。「ワクワクメール」と「ハッピーメール」の運営形態や利用方法が似ているのはそのためなのかもしれません。

「出会い系サイト」の利用方法ですが、「ワクワクメール」「ハッピーメール」「PCMAX」「イククル」「YYC」「ミントC! Jメール」「メルパラ」はいずれもポイント制を採用しており、現在の有料サイトはポイント制が主流であると言えます。もちろん定額制の出会いサイトも多く存在しますが、定額制の場合は全く利用しない月でも支払いが発生することになり、利用者にとってデメリットになりえますし、また事業者にとっても、そのために退会者が多く発生する可能性もあるため、お互いにデメリットが大きいこととなります。ポイント制の場合は、利用者はポイントを購入する

必要はありますが、基本的に使用期限はないため、しばらく出会い系サイトを使用しなくてもポイントが消滅することはなく、また利用したくなったらその出会い系サイトにアクセスすれば引き続き利用できるといったメリットがあり、事業者にとっても利用者が退会せずに長く使ってもらえるという利点があり、それが現在の主流となっています。

多くのサイトでは、会員登録は男女共に無料で、掲示板への書き込みや、他の利用者向けのメールの読み書きなどにおいては、男性はポイントを購入することで可能となり、女性の場合は引き続き完全無料という料金体系を取り、これによって男女の利用者数のバランスを取っているような仕組みになっています。

出会い系サイトと競合するサービスとしては、無料のメル友掲示板や最近大きく利用者数を伸ばしてきたマッチングアプリがありますが、それらに負けることなく現在の地位を保ち続けているのは、有料であることでのきめ細かい保守サービスや、その安心感による女性利用者の増加、およびそれによる男性利用者の増加と好循環で事業が回っていることと、アフィリエイトや知名度向上のために街中への看板設置や宣伝カーの投入等、日々、知名度の向上のための営業努力のたまものなのだと思います。これからも「出会い系サイト」は「ネットでの出会い」サービスの王道として、利用者のニーズに合わせな

がら進化し、決してなくなることはないサービスだと思っています。

②メル友掲示板

「メル友掲示板」はインターネットの黎明期、もしくはインターネットの利用が進む前の”パソコン通信”の時代から存在するもので、「出会い系サイト」の”走り”であり、原型であると言えます。”パソコンに通信”においては、”ネット上での出会い”の歴史においては重要な位置に存在しますが、パソコン通信の利用者は男性が圧倒的に多く、異性間の出会いにおいては、活発に利用された媒体ではないため本書ではテーマとして取り扱うことを割愛しています。

かつては「出会い系サイト」と「メル友掲示板」はほぼ同義のサービスでしたが、今では明確な違いがあります。「出会い系サイト」が「出会い系サイト規制法」に準じた異性間の出会いを促すサイトであるのに対して「メル友掲示板」は純粋なメールフレンドを募集するサイトであり、そこには異性間の出会いはないことになっています。

例えば、運営者は異性間の出会いを求めるような書き込みは徹底的に排除しなければなりませんし、真偽は微妙なところですが、書き込みのフォームに”性別”欄があ

ると「出会い系サイト規制法」に引っかかってしまうとか「出会い系サイト」にならないための制約がいくつかあります。一方で「出会い系サイト規制法」の規制対象であるがために、18歳未満の利用も合法であり、また、単純なシステムなので非営利の個人運営サイトもたくさんあります。ただし、この個人運営といった点では、異性間の出会いを求めるような書き込みを排除するといった保守作業を行なわなかったり、そもそも異性間の出会いや金品の授受を伴う出会い（いわゆる援助交際やパパ活）のための掲示板まであったりします。

利用者の傾向はどうでしょうか。大手の「メル友掲示板」サイトでは、比較的高齢者の利用が多い傾向があります。これは、若い世代では、Lineやその他SNSをコミュニケーション手段とすることが多く、メールを使用する機会が少なくなってしまったが大きな原因だと思われます。また、50代以上の方は、今もメールをコミュニケーション手段に用いる人も多くいて、また「メル友掲示板」のような昔ながらのシンプルな利用方法が好まれるため、これが利用者の分布に如実に表れているものだと思います。ただし先ほど申し上げた通り、まともな「出会い系サイト」の場合、18歳未満の人は使用することができず、個人運営の掲示板に18歳未満の利用者が多く流入している事実もあります。特に、「出会い系サイト規制法」の対象外である「メル友掲示板」では援助交際の募集のような違法行為がかなり横行して

おり、その他にも違法薬物の売買、違法行為に関するアルバイトなどの書き込みも多くあるため、これらの犯罪に未成年者が巻き込まれる事件が多発しています。近頃、オレオレ詐欺の受け子が未成年の人間だったという事件はよく耳にしますね。このような事件に18歳未満の人間がかかわる原因を作っているのは、このインターネット上の掲示板であることが多いと思われます。

現在メル友掲示板はネット上に大量にあります。試しにGoogleで”メル友”とか”メル友募集掲示板”と入力して検索してみてください。おそらくGoogleの検索結果の表示件数限界まで様々な掲示板が出てくると思います。サイトの種類は独自のシステムを構築しオリジナリティあふれるサービスを展開しているサイトもあれば、レンタル掲示板を利用したサービスもあります。Googleの検索結果で出てきた掲示板をいくつか見ると、複数のサイトで画面の構成がよく似た掲示板が出てくるかと思えます。これらは同じレンタル掲示板のサービスを利用して作られている可能性が高いです。

さて、メル友掲示板の最大手と言えば、「@メル友」がりましたが、2021年に突如閉鎖されてしまいました。「@メル友」は、会員登録性の無料のメル友掲示板で、”メル友”とタイトルに付いてはいますが、実際にはメールでコミュニケーションを取るのではなく、SNSのようなWEB上で1対1のコミュニケーションを取

るようになっていきます。この辺りは、セキュリティの意識が高くなった現代らしいサービスと言えるでしょう。会員登録すると、まずプロフィールや顔写真の登録を行います。そこに”性別”の登録はありませんでした。この辺りは前述したとおり、「出会い系サイト規制法」を意識したつくりになっていたのででしょうか。プロフィールに”性別”は登録できませんが、利用者は”名前”欄に”太郎（男）”や”花子♀”のように性別を付ける人も多くいて、事実上は異性間の出会いを目的に利用している人がいて、掲示板への書き込み内容も異性をターゲットにしたものが多く存在し、実際に出会うことができました。この辺りはある程度は黙認しないと利用者が集まらず、掲示板のサービス事業者にとっては死活問題になるのかもしれませんがね。掲示板は、テーマごとに細かく分かれていて、同じ地域の人同士や、同じ趣味の人同士、相談したい人とアドバイスする人などの出会いができました。

@メル友の突然のサービス終了時には事前に何の連絡もなく突然WEBサイト自体にアクセスできなくなってしまう、運営会社からの閉鎖理由等の公表はありませんでした。「@メル友」は無料で利用できるサービスで広告収入による運用がなされていたと思われそうですが、前述の通りサービス利用者は比較的高齢の方が多く、WEB広告を出稿しているサイトにアクセスして、またそのサービスを利用する人もかなり少なかったのではないかと思います。

います。そのため、「@メル友」の運営が難しく敢え無く閉鎖に至ったというのが真相ではないでしょうか。

現在、メル友掲示板を運営している大手のサイトと呼ばれるようなものはなく、ほぼ個人で運営しているものばかりになっています。メールでコミュニケーションを取るのは高齢の方に多いですが、若い人でもLineはリアルな友達や恋人用にだけ使用し、ネット上だけの知り合いとはフリーのメールアドレスでコミュニケーションを取りたいという人もいたりします。また、前述の通り「メル友掲示板」の構築は非常に簡単で、最も簡単な方法は無料のレンタル掲示板を借りて「メル友募集掲示板」のようなタイトルを付けるだけで完成です。そのため、現在のメル友掲示板は、そのような簡易の掲示板が乱立していて、これからも増えていくこととされます。これらのことから、これからも「メル友掲示板」自体がなくなることはないと思われま

③チャット

「チャット」はインターネットを介して文字で会話できるサービスです。こちらもインターネット黎明期から存在するサービスで、しくみは掲示板とほぼ変わらないのですが、「チャット」の方は誰かが書き込むとリアルタイムに他の利用者の方に表示される点が異なります。単に「チャット」というと、大勢の人数でチャットするこ

とが可能なものであり、それも「出会い」のきっかけになりうるものではありませんが、ほぼ「出会い」専用のチャットとして後述する「2ショットチャット」があります。

最近ではボイスチャット言うものもあり、これは文字通り音声でチャットを行うもので、不特定多数の人とオンライン音声会議をしているようなイメージになりますね。

チャットやボイスチャットはそれ単体でサービスを展開していることは少なく、基本的にはどこかのサービスに付随していることが多いです。掲示板と同じようなイメージですね。出会い系サイトや後述するSNSにもそれらのサイト内でチャットの機能を持っていることも多いです。

それでは「2ショットチャット」の話に入ります。出会い系サイト以前に登場したサービスとして「ツーショットダイアル」がありましたが、“2ショットチャット”はそれのインターネット版と言ってほぼ間違いはないかと思います。ちなみに「ツーショットダイアル」では“ツー”と表記していたのに対して「2ショットチャット」では“2”と表記されることが多いのは少し時代の変化を感じますね。「2ショットチャット」はその2

人で会話するという特性からでほぼ” 出会い” 目的のサービスと言っても過言ではありません。

2ショットチャットの話に入る前に少し時間を巻き戻して、まずは” インターネットチャット” というプログラムが登場したところから説明します。インターネットチャット（通称：チャット）はその名の通り、インターネット上で会話をするためのプログラムですが、まだ、通信回線が遅く多くの情報量を一度に送ることができなかったこの時代では音声のやり取りをリアルタイムで行うことが難しい時代でした。インターネット上でのチャットとは、文字で会話することを指していました。今では通信回線の発達により、音声でのチャットの他にビデオ通話もできるようになっていますので、それぞれのチャットを「テキストチャット」「ボイスチャット」「ビデオチャット」と呼び分けたりすることもあります。

WEBの世界では早くから「インターネット掲示板」のプログラムが登場しており、掲示板上で閲覧者同士が会話をする場面が多々ありました。今での「5ちゃんねる」のような掲示板サイトでもそのような傾向がみられます。そして「チャット」プログラムの最もシンプルなものは、この「掲示板」のプログラムに対して” チャット” と名を変えただけのものになります。掲示板もチャットも、もともとはプログラムの仕組みとしては全く同じものです。しかし、そこから掲示板のプログラムに

は、書き込みに対してコメントするいわゆる”レス”をつける機能や、画像を添付する機能などが付加されていき、チャットのプログラムに対しては、チャットの画面を表示している際に10秒や1分等の間隔で定期的に画面を更新してリアルタイムな書き込みを常に表示し続けるような機能が付加されたり、場が荒れないように一度に読み書きできる人数に制限を付ける機能が付加されたりしました。2ショットチャットは、この人数制限を2人に絞ったチャットのことを表しているのは、簡単に想像できると思います。

2ショットチャットが登場した時期から現在に至るまで、その仕組みに大きな違いはありません。2ショットチャットのサイトに行くとズラーっとチャットルームが並んでいます。空いている部屋を探して名前や年齢などの簡単なプロフィールやコメント等を入力してボタンを押し、チャットルームに入室して待機します。別の人があるプロフィールを見て気に入った人がいれば入室し、そのチャットルームはロックされます。そして2人だけの会話を行うことができるようになります。チャットルームに待機しているのは圧倒的に男性が多いです。もちろん女性が待機しているケースもありますが、その場合はあっという間に男性が入室してロックされてしまいます。

2ショットチャットのサービスが出回り始めた時期のプログラムは非常に脆弱なものでした。多くのサイトでは、例えば名前の入力欄にWEBサイトを構成するためのHTMLタグというものを入力することにより、待機している人を強制的に退出させることができたり、強制的に別のサイトに移動させてしまったり、またJavaScriptというプログラム言語で作られたプログラムを張り付けることでパソコンをクラッシュ（通称：ブラクラ ※ブラウザクラッシャーの略）させてしまったりできました。

今も昔も2ショットチャットのサービスは無料で提供されていることが多く、2ショットチャットは、パソコンやスマホ等の端末の前に張り付いていないといけなくて忙しい人には不向きなサービスですが、即時性が高いため、今でも人気の高い出会い系サービスであり続けています。

④ SNS

インターネットがある程度成熟した時代から存在しているSNSですが、現在のサービス展開と利用状況はどのようなになっているのでしょうか。

その前に”SNS”の定義から説明しましょう。”SNS”は”ソーシャル・ネットワーキング・サービス”の

略で、この” SNS ” という略称を用いるのは日本独自のもののようで、アメリカなどの英語圏では” social media ” や” social ” と呼ばれています。

” SNS ” とは何なのか。 ” SNS ” の定義は非常にあいまいで、広義的な定義を行うとかなり広い範囲のサービスが ” SNS ” というジャンルに括られることになります。例えば、 Facebook と Twitter と Line がすべて SNS と呼ばれていますが、みなさんは違和感を覚えたりしないでしょうか。 Facebook は自身のプロフィールを登録して情報発信や利用者同士のコミュニケーションのための従来の SNS としての利用のされ方をしている人が多いですが、一方で Line は単に連絡手段としての利用が多く、 Twitter はかなり特殊で自身の情報発信は 140 文字以内の ” つぶやき ” しかできず、それを見た人は ” リツイート ” と呼ばれる ” つぶやき ” の転送のようなことしかできません。 Twitter にも他の利用者とのコミュニケーションを取ることができますが、それは副次的な利用方法にとどまっています。

” SNS ” を Wikipedia では、広義には「社会的ネットワークの構築のできるサービスやウェブサイトであれば、ソーシャル・ネットワーキング・サービスまたはソーシャル・ネットワーキング・サイトと定義され

る。」とあり、狭義的には「人と人とのつながりを促進・サポートする、「コミュニティ型の会員制のサービス」と定義される。」と記述されています。広義な意味を考えれば、単なる掲示板なんかもSNSということになり、”SNS”というキーワードがいかに漠然としたものなのかが理解できると思います。

SNSの成り立ちは複雑ですが、SNSが現れる前から利用されていた掲示板とブログ、そしてICQのようなネット上でのコミュニケーション手段が組み合わさり、友達のリストの管理や”コミュニティ”と呼ばれる一つのテーマに沿った掲示板やその掲示板の利用者を管理する機能が付け加わって、SNSの原型が形作られました。

SNSが発達したアメリカでは、2003年にMySpaceというSNSが立ち上がり非常に人気を博しました。また同じ2004年には後に世界中で利用されることになるFacebookが、2006年にはTwitterがサービスを開始しています。日本でも早い段階からSNSのサービスが展開されていきました。2004年にGREEとmixiが、2006年には「モバゲータウン」（現MobaGe）やイラストやCGを共有できることが特徴のpixivがサービスを開始しました。

日本では最初にGREEが利用者数を増やしていきました。GREEはもともと1人の個人が趣味でシステムの開発を行い運営していた完全個人運営のサイトでした。しかし、開設当初はメール機能や日記機能などSNSとしての基本機能が実装されていないこともあり、ほどなくして開設当初から一定の完成度を誇っていたmixiが利用者数を急激に伸ばしていくこととなりました。

mixiは、開設当初は既に入会している登録ユーザーから招待を受けないと利用登録ができないという、完全招待制を採用していて、基本的に身元のはっきりした人しか存在しない安全性の高いサイトをウリにしていました。そのためmixiが人気を博し利用者数が増えてきたときに、利用したくても招待してくれる人がおらず利用できない状態の”mixi難民”も多数存在していました。当時は、プロフィールの名前は実名で登録することが多く、当時のSNSの方向性が垣間見えるものとなっていました。Facebookなんかは、今でも当時から実名使用が前提となっており、その特徴が今でも根強く残っていますね。mixiはその後、招待生を撤廃し、誰でも自由に登録することができるようになり、もともと利用していた表のアカウントの他に、裏アカウント（略して裏アカ）を登録して、友達や家族が見ている表のアカウントでは書けないようなことを書いたりする人も出てくるようになりました。出会い目的に利用している人は裏アカを利用している人が多いと思います。

現在、GREEは当時のSNSのような利用のされ方はされておらず、スマホでのゲームアプリサービスを中心とした展開を行っており、PCからの利用は2021年にサービスを終了しています。mixiは現在もサービスを継続中ですが、2000～2010年前半のような活発な利用は少なくなっています。とはいえ、まだまだ利用者数は多く”出会い”のツールとしても活発に利用されている状態です。利用者の年齢層も比較的高くなってきており、10～20代の若い人と出会い人には向いていないかもしれません。

mixiの部ブームがひと段落した頃、日本ではFacebookとTwitterの利用者が次第に増えていきました。Facebookは、前述の通り表のアカウントとしては実名での登録・利用をすることが多く、裏アカと作成して”出会い”のツールとして利用する人が多くいます。ただし、mixiでは出会い系のコミュニティが多く開設されていたのにしてFacebookでは出会い系のコミュニティは少なく、実際に出会うことができるかと言えばかなり確率は低いものとなります。Facebookは企業の利用も多く、また、いろいろな本人確認手段を用いて、実名登録させるような仕組みになって痛め、裏アカに対して登録抹消などの厳しい措置が取られます。そのため、そのような規制をすり抜けてまでFacebookで”出会い”の活動をしようと思う人もそれほど多くはないのでしょう。

それでは、T w i t t e rは「出会い」のツールとしてはどうでしょうか。T w i t t e rでも一定の”出会い”はあるようです。これは利用者においても情報提供もしくは情報収集のために利用している人が大半を占め、m i x iやF a c e b o o kのように人とコミュニケーションを取るためのツールであるという考えを持っている人が非常に少ないことに起因します。T w i t t e rは利用者にとってはあくまで”ゆるーく”つながるためのツールとしか認識されていないのです。今後もその傾向は変わらないでしょう。

次にI n s t a g r a mはどうでしょうか。インスタグラムもT w i t t e rと同様に”出会い”として利用されることは少ないと思われます。I n s t a g r a mにおいては、主に写真の共有を目的とし、女性の利用者が非常に多いSNSのため、そこに男性利用者が群がるような事態も想像できますが、女性の利用者がI n s t a g r a mを出会いのツールとして考えていないため、男性がI n s t a g r a mで女性の利用者にアプローチしてもなかなか出会いにつながりません。このような形はイラストやCGを共有することを目的とした「p i x i v」にも当てはまります。「p i x i v」は、イラストやCGといった特定の趣味に特化したSNSであるため、共通の趣味を持った人同士の出会いはあるかもしれませんが、単純に”異性間の出会い”という点においては難しいと思われます。

このようにかつては” 出会い” のツールとして積極的に利用されていた SNS は現在においては、情報の発信・収集、またはコミュニケーションの手段として利用されることが多く、出会いを求めている人の多くが比較的新しい概念である” SNS 掲示板” に流れていくようになりました。

⑤ SNS 掲示板

まず「SNS 掲示板」とはどのようなものでしょうか。類似もしくはほぼ同義の言葉として、” ID 掲示板”、” QR 掲示板” から” ライン掲示板”、” カカオ掲示板”、” スカイプ掲示板” といったものがありますのが後半 3 つの言葉で利用方法が分かる人には分かるかと思います。

「SNS 掲示板」は主に L i n e やカカオトーク、S k y p e などコミュニケーションを取るためのきっかけになる掲示板です。一言でいえば、「メル友掲示板」の SNS 版ですね。L i n e やカカオトーク、S k y p e などはお互いを友達として登録すれば、文字および音声でのコミュニケーションとが可能となりますが、その友達を募集する掲示板となります。これらのコミュニケーションアプリで友達として登録するための手段はいろいろありますが、見知らぬ人同士がネットで知り合って登録手段としては利用者の ID を教える方法と QR コード

で登録する方法があり、「SNS掲示板」ではこれらIDかQRコードを掲示板の上に公開することで友達を募集する仕組みになっています。

もちろんLineやカカオトーク、Skypeの運営事業者が公認しているわけではなく非公式のサービスとなります。特にLineの運営事業者であるLine株式会社は、”ライン掲示板”に対して厳しい態度を取っており、自社WEBサイトでの特定の”ライン掲示板”を指名しての批判や、”ライン掲示板”運営者に対する警告のようなメールも送られています。

それでもこの”ライン掲示板”を中心としてSNS掲示板は今も増え続けており、利用者も急激に増加しています。その背景には、Line株式会社が行っている警告に従う法的根拠がないこと、「メル友掲示板」と同じく、システムの構築と運営が容易であること、現在若者のコミュニケーション手段としてSNSが多く用いられていることが考えられます。

SNS掲示板は前述のような特徴から大手の事業者が運営することは皆無の状態であり、ほとんどが個人の運営になっています。個人運営としては、完全非営利の趣味で開設されたものと、アフィリエイトプログラムによるサイト上に貼った広告の収入を得ることが目的になっているものがあります。アフィリエイトにおいては、S

NS 掲示板利用者の数の割にそれほど多くの収入を得ることはできていないと考えられますが、何分、運営資金もほぼ必要ないため個人の趣味としてはそれでも問題ないものだと考えられます。

いずれにしても有料のSNS 掲示板は見かけることはなく、基本的に無料で利用できるようになっていました。個人運営であるがためにまともな保守やサポートをアテにできるわけでもなく、書き込み内容としては、もちろん” 出会い” を求める書き込みは多くありますが、それ以外にも、援助交際、違法薬物の売買、違法労働の斡旋、日本人もしくは外国人による詐欺など、混とんとした状態になっているサイトが多いです。

特に” 詐欺” 行為については日本人の場合、（犯人は男性の場合も女性の場合もありますが）女性として書き込みを行い” 出会い” や” 性交渉” を持ちかけてアマゾンギフト券や iTunes ギフト券などを要求し、相手の男性からそれらを手に入れることができれば音信不通となるといった手段が常套化しています。要求されるギフト券にはほかにも、Google Play ギフト券や Line ギフトなどもあり、これらは Line やメール等で送ることができるため現金と比較して事実上の” お金” の受け渡しが気軽にできるようになっており詐欺に利用されることが多くなってきました。外国人の詐欺においては、このような日本人が行う詐欺と同様のものの

他に手口自体は同じでギフト券を要求するのではなく投資詐欺に誘導することも多いです。ちなみにこれらの恋愛感情を利用した詐欺のことを”ロマンス詐欺”って言ったりします。とりあえずSNS掲示板上で女性が書き込んでいる内容の中で、性交渉を希望する書き込み、金品を要求する書き込み、つたない日本語（翻訳ツールで翻訳したような日本語）の書き込みに対しては無視するのが無難でしょう。また、自分が書き込んだ際にも、それなりに女性からの返信がありますが、同じく怪しい返信は無視した方が良いでしょう。

そのような中で、SNS掲示板を利用する際にぜひとも利用していただきたいアプリがあります。これは今のところiPhoneでは利用できずAndroidのスマホのみになりますが、Lineやカカオトーク、Skypeなどのアカウントを一つのスマホで複数所有することができるようになるクローンアプリというものがあります。代表的なものにParallel Space（日本語名：並行世界）というアプリがありますが、これを利用すれば、1つのスマホで2つ以上のSNSアカウントを作成して利用することができるようになりますので、これで裏アカを作成してSNS掲示板への書き込みの際には裏アカを使用することをおすすめします。

いろいろ書きましたが、ややこしい登録も不要で、無料で気軽に利用できるSNS掲示板は、その利用者の多さ

のため” 出会い” を目的とした場合に、かなり有効なツールであり、今後も利用者を増やしていくことになるでしょう。

⑥ マッチングアプリ

「マッチングアプリ」は、主にスマホのアプリとして提供されている「出会い系サイト」の一種です。スマホのアプリならではのアクセスの手軽さと操作性の良さが最大の特徴です。ほとんどのマッチングアプリでは、自分のプロフィールを登録し、他の利用者を年齢や住所、性格等から検索して興味がある人が見つかったらメッセージを送ったり「いいね」等の固定文言を送ったりするか、もしくは他の利用者からメッセージ等が届くかして交際相手を探すという機能に特化しています。

相手を検索する以外に、アプリによってはアルゴリズム（いわゆるAI）によって相性の良い相手の一覧が表示されたり、GPSの機能を使用して近くの相手を探したりする機能を持ったものもあります。

2012年にアメリカでリリースされた「Tinder」によってマッチングアプリが注目され、利用者を増加させることになりました。Tinderは、GPSの機能やアルゴリズムによって利用者が興味を持ちそうな相手の写真を表示し、利用者はその写真、右スワイプ・

左スワイプにより好み（L i k e）か好みでないかを選びます。それを選んだあとは、さらに次の候補者の写真が表示され同じことを繰り返していきます。同じ動作を他の利用者も行っており、お互いに「好み」になれば” マッチ” となりチャットを行うことができるようになる仕組みです。T i n d e r は無料で利用することができますが、一定時間内に” 好み（L i k e）” を選択できる回数に制限があり、課金することでこの制限が撤廃される仕組みになっています。なお、日本でも2012年に利用できるようになっていましたが、利用者が増えきたのは2015年頃になります。

T i n d e r によるマッチングアプリの流行に乗って、日本では「ペアーズ」「タッフル」「O m i a i」「マリッシュ」「W i t h」など多くのマッチングアプリがリリースされていて、それぞれ人気を博しています。ここに挙げたマッチングアプリはいずれも男性が月額3000～4000円程度、女性は無料の料金プランで利用できます。

例えば「ペアーズ」のサイトを見てみると、累計会員数が1500万人を超えているようで、男性が有料であるにも関わらずこれだけの利用者数になるのは、マッチングアプリの手軽さがウケて女性会員を獲得し、それにより男性会員も増加するといった流れがうまく回っているからだと思われます。また、出会い系サイトと同様に、

アフィリエイトの展開も積極的で、いろいろなWEBサイトで「ペアーズ」のバナー広告を見かけることができますが、これも利用者増員の大きな原因の一つになっています。

「マリッシュ」は、基本的に結婚相手を探す婚活に特化してマッチングアプリになりますが、このような特定の出会いにコンセプトを置いたマッチングアプリも多数存在します。変わったところでは、「いきなりデート」というマッチングアプリでは、男性は審査があり、一流大学卒や一流企業勤めのエグゼクティブのみが登録でき、「マッチ」したらメッセージの交換等の手順を省いていきなりデートするということをコンセプトにして運営されていますし、「クロスミー」では、GPSの機能を利用して、利用者同士がいつ、どのあたりで、何回すれ違ったのかが分かるようになっていて、身近な人や行動パターンが似ている人同士がマッチできるような仕組みが実装されています。

最近では従来の「出会い系サイト」がマッチング機能を実装している例も見かけるようになりました。例えば、出会い系サイトの章で名前だけ挙げた「YYC」は古くから出会い系サイトとして運営されていますが、最近ではTinderのようなマッチングアプリ的な機能が実装されています。

忙しい合間を縫って、隙間時間で理想の相手を見つけることができるマッチングアプリは、日本において、これほど相性の良いサービスはなく、現在、利用者数は徐々に増えており、今後も増え続けていくものと思われます。

⑦オンライン婚活

オンラインで婚活を行うためにはどのようなサービスを利用するのでしょうか。今まで「出会い系サイト」「メル友掲示板」「SNS」「SNS掲示板」「マッチングアプリ」と説明してきました。どのサービスにも”結婚”に特化したサービスは存在します。

それぞれの特徴は前章までで説明したので割愛しますが、例えば、「出会い系サイト」の世界では、「ゼクシィ縁結び」などが存在します。名前のおりリクルートの雑誌「ゼクシィ」を冠した出会い系サイトで女性に対する知名度は抜群で、利用金額も男女共に有料の形態を取っています。「SNS」のジャンルでは前述した「マリッシュ」がありますね。また「ペアーズ」を運営母体とするオンライン結婚相談所である「ペアーズエンゲージ」のようにSNS事業者が婚活事業に乗り出している例も存在します。

これ以外にも従来の「結婚相談所」や「婚活パーティ」の事業者がネットでのサービスを強化している例もあります。

例えば、「結婚相談所」という業界は、インターネットが普及する以前から存在していましたが、インターネットが普及した今では、オンラインによるサービスの提供に比重を置いた事業者も多く、またオンラインのみでのサービス提供という形態も生まれてきています。

ここで、まず従来（インターネット普及前）の「結婚相談所」がどのようなものなのかを説明すると、結婚相手を見つけない利用者が結婚相談所に登録すると、担当カウンセラーが付きます。担当カウンセラーは利用者の理想の相手をヒアリングし、その人に合う相手を紹介したり自ら利用者のリストから理想の相手を探し出したりする仕組みが一般的です。結婚相談所の利用料金は出会い系サイトの利用料を見慣れている人にとってはかなり割高に感じると思いますが、入会金が5～30万円、月額1～2万円ほどになります。場合によっては、実際にお見合いに発展した場合にさらに料金が発生するところもあります。お互い人生に大きくかかわる点を担当者が付いて相談に乗ってもらえるわけですからこれでも決して高くはない金額と言えます。

インターネット普及後、大手の結婚相談所を中心にWEB上でのサービス提供が行われるようになりました。そのような大代表格として「オーネット」が挙げられます。「オーネット」は国内最大の結婚相談所で、古くから存在していた「オーエムエムジー」という結婚相談所が起源のサービスです。2007年に楽天グループによって全事業継承を行われたことにより、WEB上でのサービスの向上が図られ、現在ではほぼすべてのサービスがオンラインで提供されています。かつては、”結婚相談所”という特殊なサービスから担当者の人とコミュニケーションを取るのを敬遠するような人でも、これによって担当者の人と対面で会う必要もなく、気軽に入会できるため利用者数を大きく増やしていきました。現在は、楽天グループから離れ、別の事業者による運営がなされています。

現在において、震災やコロナ禍のような災害が数多く発生し、将来への漠然とした不安の中、結婚相手を求める人が増えつつあります。明治～昭和の時代にかけて”皆婚時代”と呼ばれたりしますが、昔はほとんどの人が結婚していました。現代においては、”お見合い制度”の衰退や、”出会う”ことの難しさから結婚率が下がっています。しかし、だからこそ、「婚活」という言葉は2007年に生まれたとされていますが、そのような言葉が登場するように”結婚”に注目が集まっている時代です。”出会う”ことの難しい現代もしくは将来において

もオンラインでの婚活はすたれることなく、いずれは結婚相手と出会うきっかけのトップに君臨するようになるかもしれません。

出合いは どこに？



Chapter 4. 出会い系サイトと僕

この章では本書の著者である「僕」の出会い系サイトと共に歩んだ歴史を記していきたいと思います。

※当文書は2016年に発行しました「出会い系さんまい」から一部転載の上、加筆修正を行ったものになります。

まずは、僕の自己紹介をしておきます。

出会い系サイトを利用し始めたのは、1996年のことで、当時僕は大学生でした。バリバリのパソコンオタクで、趣味と言えばゲームを作ること。ゲームのコンテストで賞を取ったりしたこともあります。一方で、小学生の頃からサッカーをしており、運動神経もそんなに悪くありません。しかし、見た目は完全にチビのオタクです
(悲)

そんな僕は、当時彼女なんていませんし、当然童貞です
(笑)

しかし、パソコンオタクのおかげでいち早くインターネットに触れ、出会い系サイトを利用することができまし

た。詳細は後述しますが、プログラミングのスキルを活かした出会いをすることもできました。

今までに出会い系サイトを通じて会った女性の数は、おそらく200人くらいで、その中で最終的に付き合ったりした人もそこそこいます。出会い系サイトに出会って以来、「出会い系サイト」にどっぷりハマりつづけ今に至ります。

①黎明期

1996年。僕が大学生の時でした。その頃、「じゃまール」や「わあでい」のような個人間での売買、物々交換、サークル・友達・恋人の募集の情報を圧めた雑誌が流行の兆しを見せていました。僕は深夜のコンビニのバイトで休憩の時間などにそのような雑誌を見るようになりましたが、自分で恋人募集を投稿するような勇気もなく、また郵送での応募が少々面倒に感じたのでただひたすら人の投稿を見るだけという日々が続いていました。

その時期はちょうどマイクロソフト社の基本ソフト（OS）であるWindows 95が発売されインターネットへの接続が一般庶民まで広がりを見せ始めた年でもありました。まだまだ一般家庭でインターネットに接続するには費用的もハードルが高い時代、僕は幸いにも大学で自由にインターネットを利用することができました。

世間一般の新聞や雑誌では載せることができないようなアンダーグラウンド的な情報（代表的なものといえば、いわゆる無修正画像とかでしょうか）がインターネットにはあり、僕は毎日のように大学のインターネットカフェやコンピュータールームでWEBサイトを探索して回っていました。もちろん、さすがに大学で無修正画像を見たりはしていませんよ・・・（笑）

いつものように大学でネットサーフィン（もはや死語ですかね・・・）としていると、恋人を募集するための掲示板にたどり着きました。普段からWEB上に設置されているというものの存在は知っていましたが、そこで恋人募集をするなんて発想は全くありませんでした。このとき、頭にピンときたのは、『「じゃまール」や「わあでい」のインターネット版を作ることができる。いや、もうすでにたくさんあるのではないか。』ということでした。

そこで、当時まだ解説されたばかりのYahoo! Japanにアクセスして” 出会い” をキーワードに検索すると案の定たくさんヒットしました。おそらく30サイトくらいだったでしょうか。合わせて同時出版されていたWEBサイトのタウンページのような書籍（書籍名は忘れてしまいましたが）を見るとさらに膨大な数の出会いサイトが掲載されていました。

早速アクセスしてみると、サイトによって様々でしたが、そこそこの賑わいを見せているサイトもあるようでした。ただし、やはり女性の書き込みはかなり少なく、99%は男性の書き込みだったのではないのでしょうか。今でもこのような傾向はないとは言えませんが、当時の女性はネット上に現れるだけで、女神のように扱われ、オフ会にでも参加しようものなら、どんな女性でも女性というだけで周りの男性からチャホヤされるという時代でした。

雑誌の投稿には少々抵抗のあった僕ですが、ネットへの書き込みだと非常に楽で匿名性も高いのでいろいろなサイトの恋人募集の書き込みをするようになりました。

この時の僕のスタイルとしては、自ら募集掲示板に書き込みを行い、女性からの返事をひたすら待つということに徹していました。前述の通り、女性は女神様なので女性の書き込みには男性陣が殺到していることは容易に想像がつかしました。

ところで、この時のインターネットセキュリティについてお話しましょう。結論を先に言ってしまえば、当時、セキュリティなんて言葉があったのかどうか分からないくらいセキュリティ意識は皆無だったと思います。そもそも、「じゃまール」や「わあでい」のような雑誌に自分のポケベルやPHS・携帯電話の番号を掲載するような時代です。インターネットの世界でもそれば同様でし

た。個人情報保護法が施行されたのが2005年のこと
ですから、”個人情報”なんて言葉もなかったと思いま
す。みんな思い思いにメールアドレスや電話番号をWE
B上の掲示板に投稿していました。

僕はというと、まだフリーメールなんて存在も知らなか
ったので、大学から発行されたメールアドレスをそのま
ま掲示板に掲載していました。どこの大学の学生かバレ
バレです。同じ大学の学生なら、メールアドレスから、
所属学部まで分かってしまいます。しかし、まあそんな
ことは全く気にせずいろいろなところにこのメールアド
レスを書き込んでいました。

しかし、ひとつだけ困ったことが出てきました。日々山
のように送られてくるスパムメールです。毎日のよう
に、かのクリストファー・エリクソンさんからメールが
送られてくるようになりました。クリストファー・エリ
クソン氏をご存じない方は、ネットで検索してみてください。
さい。

あちこちの掲示板にメールアドレスを晒し続けた結果、
毎日100～200通くらいのスパムメールが送られて
くることになりました。当時、まだ今のようなスパムフ
ィルターのような機能もなく、送られてきたメールはす
べて手元に届くことになりました。困ったことに、大学
のメールサーバーに容量制限があり、それほど多くのメ

ールを残しておくことができませんでした。そのため、日々、メールを開いたらまずはひたすらスパムメールを削除するという作業に追われるようになってしまいました。

1997年だったでしょうか。大学の友達からH o t m a i lの存在を教えてもらいました。まだ日本語サイトはありませんでしたが、日本語メールの読み書きは可能でした。このとき無料でメールアドレスがもらえるフリーメールの存在を知りつつ、WEB上でメールの読み書きができるWEBメールの存在を知ることになりました。まさに”目から鱗”状態です。メールアドレスがタダで貰えるなんて考えもしませんでした。その日からH o t m a i lを使って出会い系サイトへの書き込みをするようになりました。H o t m a i lなら、そこそこ大きい容量があり、日々のスパムメールを残しておいても容量がいっぱいになることもありませんでした。

話を戻して、僕が出会い系サイトの利用を始めてから3か月くらい経って、初めて女性を会うことになりました。が、あまりにも衝撃な出会いだったので、これについては「Chapter 5. ちょっと変わった私的体験談」をお読みください。

その後、1か月に1人くらいのペースで女性と会ったり、友達を誘って合コンしたりしていました。自分が学

生ということもあり、やはり女子大生が多かったと思います。1対1で会うよりも、合コンの方が女性も抵抗なく誘いに応じてくれる率が高くなりました。ただし、僕の場合、合コンは苦手なんですよね。容姿が良いわけでもなく、盛り上げるのも上手いわけでもないの、おいしい所は全部ほかの男が持って行ってしまいます。結局、僕は合コンでその後付き合ったりといったことは全くありませんでした。一方で、1対1で会う方では、何人と付き合ってみたりもしましたが、付き合いながらも別の相手を出会い系サイトで探し続けていました。一種の中毒症状なのでしょうか・・・。

②目的は変わって

出会い系サイトを利用し始めて3年くらい経つてくると、女性の利用者も徐々に増えていき、そこから女性と実際に会うというのがかなり簡単なものとなりました。まず、待ち合わせをしてご飯を食べて、気に入れば付き合う・・・。このような繰り返しが単調なルーティンに思えてきてしまい、いまいち面白くなくなってきました。でも、出会い系サイトの利用はやめません。おそらく出会い系サイト中毒者ですから・・・
(汗)

しばらくして、携帯電話からWEBサイトにアクセスできるようになりました。NTTドコモの「iモード」

に代表されるサービスの登場です。これにより、世の中のインターネットユーザーが爆発的に増え、WEBサイトも爆発的に増加していきました。

出会い系サイトに関しても、もはや僕には把握しきれないくらいの数になり、出会い系サイトを理由する人たちも男女問わず増えていきました。いつものように”定型文”をひたすら掲示板に書き込み続け、返事を待つ。するとそれなりに返事が来ますが、様々な人種の人から返事が来るようになってきました。今では、主に学生やOLといったちょっと知的なイメージがある女性からの返事が多かったのですが、今までには考えられないような、主婦、バツイチの人、フリーター等の人からも返事が来るようになりました。あと稀に高校生や中学生からも返事が来ました。まあ、中高生は基本的に無視していますが・・・。（犯罪者になりたくないので・・・（笑））

そうして、いろいろな人とメールのやり取りを続けて行くうちに、あることに気づきました。

「たぶん、この人、会ってすぐにヤれるな・・・」

そんな雰囲気というか、会話の流れになることが、たまにありました。案の定、そっちの方に会話に持っていく

と、すんなりそのような約束で会える人も出てきました。

そんなわけで、ただ会うだけでは満足しなくなった僕に新たな目的ができたのです。

「会って、すぐホテルへ」そんな目的の上での出会い探しは、今までとは比較にならないくらいの難易度を誇りました。正直会うだけなら2, 3日に1回は女性をゲットできる状態でしたが、この場合、やはり1か月に1度会えるかどうかになってきました。相手の女性と苦労して毎日毎日メールのやり取りをして、いざ会う時の段取りでこのような話を持ち込むとそれ以来返事が来なくなったり、メールで会話しているうちに、この人は無理だなと判断してこちらから返事をしなくなったり。あと、待ち合わせをスッポカされることもごくたまに出てくるようになりました。

それでも、せっせと毎日出会い系サイトに向かう僕は、やはり中毒者なのでしょう（笑）

すぐホテルに誘ってOKをくれる女性です。やはりちょっと普通じゃない人が多いです。いわゆる”メンヘラ”（※）の人が多いです。このとき僕は初めてそのような人種と出会うことになりました。腕にリストカットの痕だらけの人はザラにいますし、背中によく分からない仏様の入れ墨を入れた人、もはや会話が成立しない人

まで、いろいろな人を会うようになったのもこの頃だったと思います。

(※) メンヘラ・・・心の病を持った人のこと。

この頃に携帯電話からのインターネットアクセスが爆発的に増えたこと前述の通りですが、出会い系サイトの数が爆発的に増えて、あちこちに書き込みをしたい僕にとっては、これが非常に悩みの種でした。出会い系サイトの数が多すぎきて、もはや、すべてのサイトに書き込みをすることは不可能になっていました。そこで、僕はあることに取り組み始めます。掲示板自動書き込みツールの開発です。

当時の掲示板のセキュリティはほぼ無いに等しく、このようないわゆるスパムツールからの書き込みが簡単に行えました。実はこの書き込みツールの作成に当たっては難しい技術も不要でWEBの仕組みやプログラミングの知識があれば簡単に作れてしまいます。

こうして、ボタン一つで一瞬にして数百の掲示板への書き込みを可能にした僕は、今までと比較して格段に出会い系サイトに掛ける時間を減らすことができました。あまりにも簡単に書き込みができてしまうため、あちこちの掲示板に書き込みしまくった結果、時には、掲示板の管理人さんからおしかりを受けたりしたことも多々ありましたが・・・。今となっては、スパム対策がなされて

いるところが多くなり、このような簡単なツールを使った書き込みをすることは難しくなりましたが、今でもツールを使っていそうな書き込みを多々見かけることから、おそらくスパム対策の対策（笑）をしたようなツールを開発している人もいらっしゃるのでしょう。

③リアルタイム性を求めて

出会い系サイトを利用し始めてから長らく掲示板へ募集の書き込みを行い、返事が来た女性とメールの何日かやり取りをした後、会うといったやり方を繰り返していましたが、それがどうももどかしいように思えてきました。そのような中、じわじわと増えていたのが2ショットチャットというサービスです。もともと、掲示板上で会話をする人達が出てきたのをきっかけに、その仕組みのまま”チャット”と名前を変えただけのサービスですが、それが出会い系サイトでも登場するようになってきました。

掲示板とチャットの唯一の違いは、チャットの方には更新ボタンが設置されているか自動更新の機能があることが多いくらいです。更新ボタンとは、ボタンを押すとチャットの画面を読みこみなおして画面とを更新することです。当時のWEB技術では、誰かが書き込んだ内容をリアルタイムに他の人が見るということが不可能で、チャットに張り付いている人は、定期的に画面を更新して

最新の書き込み内容を再表示する必要がありました。自動更新は、更新ボタンを押す代わりに定期的に画面を更新してくれる機能で、こちらの方が楽なように思えますが、書き込む文章を入力している最中に更新処理が走ってしまって、また一から書き直しということもしばしばありました。

そして、そのうち2ショットチャットが登場するようになります。2ショットチャットとは、今までのチャットが無制限の人数で当時にチャット可能なのに対して、2人でのみ会話ができる機能です。初めに入った1人がそのまま待機して、もう1人の人がそのチャットに入った段階でロックされ、それ以上他の人は入ることができず、チャットが開始されます。2人のチャットの中身は基本的には他の人は見ることはできませんが、まれに見ることができるサービスもありました。大概の場合、男性が先に入って待機し、女性を待つということが多く、要するにテレクラのインターネット版のような感じだと考えてもらえば良いと思います。

僕は、パソコンの前に常時張り付いていないといけない2ショットチャットには全く興味はなかったのですが、日頃、掲示板で知り合った女性と携帯電話に張り付いてメールしていることを感があると、実はたいして変わらないと考えるようになり、しだいに2ショットチャットを利用することが多くなりました。

2005年くらいだったと思います。僕の出会い系サイトの利用方法は、あちこちの2ショットチャットで待機し、女性が入ってくると会話がスタート、そしてメールアドレスを聞き出して、しばらくメール交換をした後、会うというスタイルに完全に変わっていました。

2ショットチャットの良い点は、最初から会話することができるので、会うまでの期間が非常に短いことです。今だから話しますが、仕事が暇な時、職場で昼間に2ショットチャットで女性と話し、その日の退社後、待ち合わせしてホテルに直行ということも何度かありました。セキュリティの厳しい現在では職場のネットワークを利用して出会い系サイトにアクセスするなんて考えられないですね・・・（笑）すぐにセキュリティ推進課の人が飛んでやってきそうです。

当時、2ショットチャットは携帯電話用のサイトを中心に大変な賑わいを見せていました。2ショットチャットの部屋にも限りがあるため、日々男性陣で部屋の取り合いになっていました。なかには、なかなか部屋が取れない人が、いやがらせで待機している男性のところに女性の名前で入り、何も語らずに居座るといったこともしばしばありました。詳細は秘密にしておこうと思いますが、当時のセキュリティの甘い2ショットチャットには様々なセキュリティホールがあり、WEBの知識さえあれば、男性が待機している部屋を乗っ取ることも可能で

したし、いやがらせをしてくる輩にはブラクラ（※）をぶちかますこともできました。

※ブラクラ・・・ブラウザクラッシャーの略。引っかけるとWEBブラウザを動作不能にしてパソコンの再起動を与儀なくされる仕組みのこと。今は各種ブラウザにもブラクラ対策が取られているためほとんど引っかけることはない。

しかし、2ショットチャットにも少々厄介なことがあります。

前述したとおり、2ショットチャットで待機している間中、パソコンの前に張り付いていないといけないこと、そして複数の部屋で同時に待機していると、ちょっとした隙に女性が入ってきているのを見逃してしまうことがあります。

というわけで、こちらもITの力を使って解決です（笑）

入室した部屋の管理ツールを作成しました。これは、待機している複数の部屋の状態を常時監視し、女性が入ってきたら音声でお知らせしてくれるというものでした。これは以前作った掲示板への自動書き込みツールを応用し、あとは2ショットチャットの仕組みさえ解析できれば非常に簡単に作成できてしまうツールです。

これを作ったおかげで同時に10部屋くらい占拠していても女性の入室を見逃すことはなくなりました。ただし、多い時で同時に5, 6人のチャットの相手をしないとイケないときもあり、結局会話が追いつかないこともありました。・・・(笑)

このような2ショットチャットは、現在はかなり衰退してきました。「LINE」に代表されるスマホ用のチャットアプリが出てきたためだと思われます。都度画面の更新を行わなければならないWEB上のチャットと比較してチャットアプリは真のリアルタイムでの会話が可能です。

僕自身も2ショットチャットの即時に出会いが可能である魅力であるものの、やはり終始パソコンに張り付いている必要があることがネックになり、次第に利用しなくなってきました。そもそも、それほど、すぐに会いたいたっていう欲求もなくなってきました。歳のせいでしょうか・・・。

④ やはり年齢には勝てないか・・・

2007年ころから、インターネット上ではSNSのサービスが人気を博すようになってきました。多くのSNSは開設当初から出会い系サイトのような利用のされ方

をされないように様々な取り組みを行ってきましたが、SNSのサービス形態は出会い系サイトの最終進化形とも言える形になっていたため、やはり出会い系サイト代わりに利用する人が続出するようになりました。当時のSNSの魅力は、何といたっても利用者の多さです。とあるSNSのサイトではピーク時のアクティブユーザー数が1500万人を超えていたと言います。今ではSNSという様々な形態がありますが、当時の形態として、まず、個人のプロフィールを作成して、日記を書き、コミュニティと呼ばれるグループに入ることによって共通のテーマについて話すことができるといったサービスの集合です。あと、特徴的なのが利用者同士で「お友達」として登録することができ、ネット上で個人と個人とのつながりを示すことができると言った点があります。「友達」という形のない”もの”をネット上で形にするといった点がいかにも現代的ですね。

このように潜在的に出会い系サイトとしての機能を持っているため、出会い系サイト代わりに利用する人が出るのも当然です。何より、SNSにはかなりの数の女性が集まっています。そこに男性たちが群がってくるのは当たり前です。”出会い”をテーマとしたコミュニティがあちこちで作成され、メル友や恋人募集の書き込みがなされていくようになりました。

僕も当然この機会を見逃すようなことはしませんでした。出会い系専用のアカウントを作成し、出会い系のコミュニティに募集の書き込みをするようになりました。

もう一つ、SNSの大きな特徴ともいえるべき機能があります。「足あと」の機能です。これは自分のプロフィールを見た人を記録し、リストアップしてくれる機能です。僕のプロフィールを見た人は、ひょっとしたら、僕の書き込みを見て興味を持ち、僕のプロフィールを見に来たという可能性があります。

僕は、足あとを付けた人のプロフィールをチェックし、女性であることと、あと年齢や住んでいる地域等で絞ってメールを送るようになりました。そうするとかなりの高確率で返事が返ってきました。

とは言え出会い系サイトと違って、ほとんどの人が出会い系目的で登録しているわけではないため、会える確率は出会い系サイトと比較するとかなり低かったと思います。結局は出会い系サイトを利用していたときと同じくらいの月1回程度でした。（もちろんホテル直行です・・・）

かなり長くの間、このSNSを利用した出会いを続けていました。今でもたまに利用したりします。ただし、SNS自体も衰退してきたこともあり、かなり会える確率

が下がってしまいました。あと大きな要因はやはり、僕の年齢です。

20代の頃と変わらず、お相手のターゲットを18～28歳くらいに絞っているため、それでは当然会える確率も下がってしまいます。それでも、例えば15歳くらい下の女性と会えたりしたときの感動は何度あっても大きいですよ（笑）世の中にはいるんですね。稀ですが、年上・・・というかおじさん好きが・・・。

月に1度から2か月に1度、3か月に1度と、新しい出会いの頻度は徐々に落ちていきましたが、こちらの性欲もそれなりに落ちてきているので、まあちょうど良い感じですよ。

昔だったら睡眠を削ってでも、チャットしたり会いに行ったりしていましたが、今は取りあえず寝たいですもん（笑）

現在の出会い系サイトの状態はというと、SNSは衰退気味、王道な出会い系サイトはそれなりに続いています。無料サイトはもとより、有料サイトもそれなりに賑わっています。しかし、スマホの台頭により出会い系アプリなるものが溢れかえっているようです。僕も有名なアプリをいくつか使ってみましたが、どうも馴染めなくて使わなくなってしまいました。GPSを利用して近く

の人を検索できたりする機能は大変よくできていると思いますけどね。

僕は、最近では、有料の出会い系サイトをよく利用しています。有料ポイント制の出会い系サイトの多くは、人にそのサイトを紹介して入会してもらおうと報酬として、現金かポイントがもらえる仕組みになっています。僕は、今までで、出会い系サイトに1円もお金は払ったことはなく、有料サイトもこの報酬で利用しています。

僕のプロフィールに足あとを付けている人やメールをいただく人の多くが30～50代のお姉さまですが、負けずに20代の女性をターゲットにして頑張っています。

⑤そしてこれから

歳をとるにつれて新しい出会いは難しくなってきましたが、これからもマイペースで出会いを探します。

出会い系サイトの魅力は何と言っても自宅にいながらにして、膨大な女性の中から出会いを探すことができます。そのため、手間を惜しまなければ、年上が好みの女性や、ホテルに直行してくれる女性もいつかは見つかります。路上でのナンパだと効率が悪すぎて、このようにはいきませんね。まあ、路上ナンパは見た目ですら9割くら

いは決まってしまうような気がするので僕には多分チャンスはありませんが・・・（笑）

出会い系サイト黎明期より細々を出会い系サイトの攻略法のような書籍を見かけます。僕も、いくつか手に取って読んでみたことはありますが、まあ、内容はかなりいかがわしいものです。僕の経験上、出会いに攻略法なんて存在しません。もちろん、出会う可能性が高い優良な出会い系サイトの選定方法や、女性へのファーストコンタクトの方法等、一定の攻略法と呼べるものは存在するかもしれませんが、最終的には人と人との付き合いなので、パズルやゲームのような必勝法というものは存在するはずはありません。

僕の場合、”ファーストコンタクト”・・・初めに連絡先をゲットするまでの手順はほぼ一定の手順で進めることができます。そのあとのメールや電話などでの会話から会うまで、また会った後については、やはりその場その場での状況に応じた判断が要求されるので、何度やっても飽きないゲームのような感覚です。

出会いを探している方々に僕からアドバイスできるとしたら、”出会うまでの過程を楽しめ”ということでしょうか。エラそうなこと言ってすみません・・・（汗）

今までは取りあえず、すぐにホテルに直行する約束を取り付けた上で会っていましたが、最近では原点に立ち戻

って、若い娘と普通にご飯を食べに行ったり飲みに行ったり、健全なデートを楽しむのもいいかなって思うようになってきました。やはり歳なのでしょうか・・・
(笑)

実際、最近では、1回目は会って普通に食事するだけで別れて、2回目に会う時にホテルに行くといった若いころの僕からは考えられないような悠長なことをしたりもしています。そのため、1回目の食事以降、相手から返事が来ないってということもありますが、まあ、それも出会い系サイトを利用する面白さのような気がしています。

ここ最近では、SNSの多様化、スマートフォンの普及によるアプリによる出会い等、出会い系サイトの代替になるようなサービスが続々と登場しています。また自治体による出会い支援や、相席居酒屋に代表される民間の出会いサービスのようにネットを介さないオフラインな出会いも、ここに来て一気に広がりを見せています。

出会い系サイトの黎明期から利用し、その進化を興味深く見続けてきた僕にとって、これから出会い系サイトがどのように進化して行くのか、今後も興味が尽きることなく見守っていきたいと思います。



Chapter 5. ちょっと変わった私的体験談

基本的に出会い系サイトに登録している女性のうち、僕の経験上、実際に会えるのはいわゆる”メンヘラ”だったり、ちょっと変な性格の人だったりすることが多いのですが、変わった体験というテーマにすると意外に少ないんですよね・・・。

だいたい、普通に会ってデートするか、ホテルに直行するかは2択ですからね・・・ (笑)

とはいえ、今までに約200人くらいと会っているので全くないことはないです。

というわけで、ここでは、僕の数ある出会い系サイト上での出会いの中でも、ちょっと変わった体験をご紹介します。

※当文書は2016年に発行しました「出会い系ざんまい」から一部転載の上、加筆修正を行ったものになります。

①OL 2人組はあの信者だった！

1996年・・・・

僕が初めて「出会い系サイト」に出会った年です。その前年にはWindows 95が発売され、世界中はWindowsフィーバーに沸き、Windows 95のおかげで、難しい設定を行ったり追加でアプリケーションを購入したりしなくても、誰でも簡単にインターネットに接続できるようになりました。この年を「インターネット元年」と呼び、人類のコンピュータネットワーク社会の幕開けとなったのです

・・・とIT業界の歴史としてはこんな感じなのかもしれませんが、日本では、そもそも、まだまだPCの普及率も少なく、家庭でプロバイダーと契約して自由にインターネットを使えるところは、ほとんどなかったのではないのでしょうか。

僕は、この頃ちょうど大学生で、大学でインターネットに接続されたパソコンを自由に使うことができました。この当時のインターネット利用者はおそらく学生や教職員、IT企業の社員等が多くを占めていたのだと思います。

もともと僕はかなりのパソコンオタクだったことから、大学でも毎日のようにインターネットでいろいろなサイトを見ていましたが、そんな中、ふとしたきっかけでイ

インターネット上に出会い系サイト（当時、そのような単語はありませんでしたが）の存在を知り、どっぷりハマって行くことになります。

この頃は、ビジネスとして運営されている出会い系サイトはあまりなく、ほとんどは個人の趣味で運営されているサイトでした。ひとまず、あちこちの出会い系サイトの掲示板に女性のメル友募集のメッセージを書き、ひたすら待っていましたが、しばらくの間全く返事はありませんでした。

それもそのはずで、この頃まだまだインターネット利用者が少ないのは前述の通りですが、女性の利用者は輪をかけて少なかったはずです。ある統計によると1996年の女性のインターネット利用者の割合は10%ほどだったとか。さらに得体のしれない出会い系サイトなるものを利用する女性なんて、ほとんどいなかったのでしょう。

それでも、僕はせっせと掲示板への書き込みをし続け、出会い系サイトを利用し始めてから3か月くらい経ったある日、ついに女性からのメールが届いたのでした。

「はじめまして。よかったらメールしませんか」

その短い文章に、初めてのメール交換の喜びで心躍ったことは忘れもしません。

僕より2歳年上で事務職をしているという彼女。この時代に家でインターネットに接続しているらしいハイテクな人でした。何度かメールをやりとりしているうちに、一度飲みに行こうということになり、あっさり会うことになりました。会う前日くらいに彼女から1通のメールが来ました。

「友達も1人連れてきていいですか？」

やっぱり、一人で会うには抵抗があったのでしょうか。今ならおそらくこの時点で会うことはなかったでしょうか、当時の僕は、即座にオッケーのメールを返しました。するとさらに彼女からのメールが届きました。

「実は、私はオ〇ムの信者なんです。もし、イヤだったら断ってくださいね。

まあ、実際のメールはもちろん伏せ字で送られてきたわけではないですし、わざわざ伏せ字にすることもないのですが・・・（笑）

ここで、僕は、正直この先はないな、と思いつつも、どうせ暇だし飲みに行くくらいならいいかと思って、

「別に気にしませんよ。よろしくお願ひします。」

と返信した。うーん、我ながら大人だ（笑）いや、むしろ若かったというべきか……。今だったら、単に勧誘目的なのかもしれないと疑って、わざわざ飲みに出かけるのも時間の無駄だし、おそらく会わなかったでしょうね。そもそも、2人組ですし。

翌日夕方、某駅の改札あたりで待ち合わせをしました。まだ携帯電話はそれほど普及していませんでしたが、当時、僕はPHSを持っていたため、顔を知らない者同士でもそれほど会うのに苦労することはありませんでした。僕は待ち合わせ時刻の15分ほど前に待ち合わせ場所に付き、ぼーっと待っていると、向こうから2人組の女の子が歩いてきました。ひとりには細身の美人といった感じの人で、もう一人はぽっちゃりのかわいいといった感じの人でした。休日の夕方の、しかも市街地から少し離れた駅での待ち合わせだったため、周りにはほとんど人がおらず、待ち合わせの相手が彼女たちだろうことはすぐに分かりました。ひとまず、彼女たちに声を掛け、近くの居酒屋に向かって歩きました。細身の方が僕とメール交換をしていた人で、ぽっちゃりの方が友達でした。

居酒屋に入り、しばらくは、普通に学校の話や仕事の話をして、僕も彼女たちがすっかりオウ〇の人たちだとい

うことも忘れていた時に、いきなり修行の話やら、今度、教団の映画が上映されるやらって話をしだすようになってきました。いよいよ来たか！僕はそう思いながら適当に耳を傾けていました。まあ、結局これで入信の勧誘をされるようなことはなく、あの大事件から間もない時に話だったので、僕も興味深く話を聞くことができました。彼女たちも例の事件には後ろめたさがあると言っているようなことも言っていたと思います。

居酒屋から出て、もう1件行こうってことになりましたが、ぽっちゃりの方が、近くに事務所があって、ちょっと荷物を取ってくるということで、途中その事務所に立ち寄ることになりました。事務所とはもちろんオウムの事務所です。事務所の前に来て、僕も一緒に入るか聞かれました、面倒なことになったらイヤなので外で待っていることにしました。その後、別の居酒屋で飲んだ後、各自帰宅し、その後も何度かメールの交換を続けましたが、いつしかメール交換もなくなってしまいました。

結局、彼女たちは、純粹に友達がほしかったのか、勧誘を目的にしていたのかよく分かりませんでした。オム真理教って今どうなっているのでしょうか。まだまだ信者はたくさんいるのでしょうか。

②ちょっと珍しい職業の方々

僕が出会う人の職業の中では、看護師さん率が非常に高いです。そのあとに、フリーターもしくはは無職、事務職、学生が続きます。あとなぜか工場勤務の人も多いです。

工場勤務の人は、毎日流れ作業をひたすらやるような仕事で、会ってみると、「なるほどな」って納得してしまいます。極度の人見知りの人が多いのです。流れ作業なら、工作中、人と接することなくひたすら目の前の作業をこなしていけばいいですからね。

フリーターや無職・学生さんの人は、仲良くなればなるほど煩わしく感じてきます。結構な暇を持て余していますから、メールや電話の頻度も多く、こちらがメールを送ると、相手が寝ているとき以外だったら瞬時に返信が来たりします。こちらは、毎日、仕事をしており、夜遅くまで残業していることも多いものですから、この返信の早さや何通もメールが送られてくることに対して引き目を感じることもあります。あと、相手はいつでも予定が空いているので、毎週末ごとに都合を聞いてきたりするので、あんまり会う気がないときの理由を考える必要があったりします。

一方、看護師さんの場合、大きな病院の場合は、夜勤あり、土日の出勤もありで、基本的にカレンダー通りに仕事をしている僕とは予定が合わないことが多いです。そ

のため、メールも1日数通のやり取りのみ、会うのも月イチくらいで、末永く付き合うことができます（笑）

前置きが長くなりましたが、今回は今まで出会ってきた女性のちょっと珍しい職業についてご紹介します。

その1 「経営者」

一度、32歳でカフェを3店舗営んでいるという女性と出会いました。なかなか景気は良さそうですが、メールのやり取りをするたびに自慢の愛車（アルファロメオ）の話や、食べに行った高級レストランの話、最近購入したブランド物の話等、僕にとって全く興味のないちょっとした勝ち組自慢が入ってくるので、かなりウザかったのですが、写真の交換をした際に、見た目が悪くなかったのと、会って即ホテルに行けそうな雰囲気だったのでぐっと我慢して、彼女の自慢話を立てつつメール交換を続けました。

というわけで、休日の昼間に無事会う約束を取り付けたわけですが、ホテルに入る前に昼食をおごってくれるということで、ちょっと期待しつつ待ち合わせ場所に向かいました。

自慢のアルファロメオでやってきた彼女の運転で着いたところは自分の経営するカフェです。どうやら彼女は、

自分のカフェも自慢したかったようです。まあ、おごってもらえるわけですし、彼女から店員さんに僕のことを紹介されて、ちょっと気まずい思いをしながらハンバーグラunchを食べた記憶は今でも忘れられません。

昼食後、彼女の運転をホテルに行きましたが、露天風呂のあるホテルが良いということで、僕は隣で携帯電話を使って近くのホテルを検索しました。どうやらホテル代も出してくれそうな勢いです。露天風呂のあるホテルなんて、それなりに料金も高く、僕も行ったことがないので今までテンションがかなり落ち込んでいたところから、一気に盛り返してきました。

無事、露天風呂付ホテルを見つけましたが、やはり高いですね……。普通の部屋の3倍くらい取られます。案の定、彼女がホテル代を出してくれるということになり、一緒に露天風呂に入りました。温泉にある露天風呂と違って、都会のど真ん中のビルの屋上で、普段できないことをすることに非常に興奮したのを覚えています。

自慢話は少々ウザいですが、会ってみると人柄は悪くなく、僕は一銭もお金を出すこともなく都会の露天風呂も満喫でき、非常に満足のいった出会いでした。

・・・が、やはり毎日のメールでの自慢がウザく、会ったのは結局この1回きりになりました。

その2 「ネットカフェ難民」

無職です。某出会い系サイトを通じて知り合いました。出会い系サイトを利用しているとネットカフェ難民を筆頭に、泊まる場所がない人がかなりいることが分かります。泊まれるところを探している女性と、泊められる男性のためのサイトもあるくらいですから、祖なりの需要と供給があるのでしょう。もちろん、泊めてもらう女性にはそれなりの対価が求められます。男性の方は、よく知らない女性を泊めるわけなので、家の中でお金や物を盗まれたといった被害もよく聞きますので注意が必要です。

ネットカフェ難民の女性については、泊まるとことは一応あるわけですから、自分の体と引き換えに泊めてもらうというよりは、単純に援助交際を持ち掛けてくる人が多いような気がします。僕も、たまにネットカフェで寝泊まりしているという人から援助交際のお誘いを受けることがあります。すべてNGです。援助交際に全く興味はありません。

話を戻しますが、このとき知り合った女性は19歳で、彼氏の家に住んでいたけど、別れてしまって家を追い出されたという女の子でした。しかし、特にお金を求めているわけでもなく、純粹に会う約束をしました。もちろ

ん会ってすぐにホテルに行く約束はしていましたが・・・（笑）

そして約束当日の日、会っているいろいろ話を聞いていると、どうやら家庭が複雑なようで、父親の再婚相手の人と一緒に住んでいたけど、高校生の時に父親がなくなって、高校を卒業と同時に家を追い出されたそうです。聞くところによると大学受験をして某有名国立大学に合格していたけど、当然授業料を出してもらえないはずもなく、高校卒業とフリーターとして過ごしているそうです。

落ち着いていて、かつ、しっかりとした話し方を聞いていると、某有名国立大学に合格したというのはあながち嘘ではなさそうです。話を聞けば聞くほどかわいそうになってきて、お小遣いでもあげたくなってしまいました。が、それでは援助交際を変わらなくってしまいますので、ここはぐっと我慢して、とりあえず、そのホテルで1泊することになりました。久々のお風呂ベッドにとても喜んでいたのが印象的でした。

翌朝、別れる間に、しきりにお金がないようなことを話し出していました。その時は、特に何も思わずにそのまま別れてしまいましたが、今から考えるとやっぱりお金がほしかったんだろうなあと思ってしまいます。

会ってから、何回かメールのやり取りはしていましたが、いつしか彼女の方からメールが来なくなりました。きっと、新しい仕事も見つかったのか、新しい彼氏が見つかってネットカフェ難民から脱出したのだろうと希望的観測をする僕でした。

その3 「AV女優」

風俗嬢とはよく出くわしますが、AV女優の方と出会ったのは今まで1度きりです。某SNSで知り合った彼女ですが、当時21歳、はじめに自己紹介したときに自ら職業はAV女優であると語っておられました。

AV女優をされているんだったら、アッチの方はテクニックもすごくて、さぞ満足のいく体験ができるのだろうとお思いの方もいらっしゃるかもしれませんが、結論から言うと全くそんなことはなくベッドの上でも至って普通の人でした。たまに出くわす風俗嬢の方との出会いでも同様なので、そういったことは全く期待していませんでしたが、案の定、他の職業の方を変わらない普通の女の子でした。強いて言うなら見た目がちょっとハデなくらいでしょうか。さすがに見た目やプロポーションは悪くなかったと思います。

AV女優になったきっかけは、楽にお金が稼げそうだからとのことですが、結局、なかなか出演する機会がなく

て、その頃はまだ3本しかDVDを発売していなかったそうです。一昔前だったら、AV女優や、風俗嬢のような方々はかなりのお金を持っていそうなイメージがありますが、決してそうでもないようです。今まであった風俗嬢の中には、1日8時間20日ほど勤務して20万円いかない月もザラにあるそうです。大学卒の初任給以下ですね。

会った後、芸名って言うのでしょうか？AVでの名前を教えてもらったので、ネットでDVDを検索してみました。ジャケットがまるで別人でした。ちなみにそのDVD自体は見ていません。（ちょっと興味はありましたが・・・）

その4 「女子大生」

すみません。今回のお話しは職業でもないし、珍しい人種でもありませんが、大記録達成の自慢話です（笑）

某SNSを介して知り合った大学生がいました。年齢は21歳。なんと僕との歳の差23歳ということで、もちろん美味しくいただいたわけですので、自身の出会い史上の大記録達成となりました。お金を介した出会いならば、”パパ活”という言葉もあるようにいくらでも自分の娘や孫のような年齢の女の子といたすことはできるの

だと思いますが、もちろん金品のやり取りは一切なしです。

今までで会ってきた女の子の中でも、年配男性好き女子は少なからずいます。例えば、以前僕が38歳の時、23歳（15歳差）の看護師の女の子と出会い、何度かホテルで楽しい時間を過ごさせてもらったあと、自然消滅させる形に持って行ったことがあります。その時は、僕の書き込みに対して彼女の方からアプローチが来て出会うこととなったのですが、自然消滅後、僕の別アカウント（プロフィールはいろいろ変えていますが、年齢は変えていません）に彼女からアプローチが来たことがあります。なかなかのかわいい子だったのでもう一回くらいやりたい気持ちを抑えつつ、当然無視するしかなかったのですが、彼女の場合、年配好きかもしくは相手の年齢を気にしないタイプであることは確かですね。

話が逸れてしまいましたが、23歳差の女子大生の話に戻って、その子が入っているコミュニティを見ると、なかなかの年上好きであることが伺えます。Lineで話をするようになって、いろいろ聞いていくうちに、やはり若い男性には興味がないらしく僕のようなおじさんにはうれしい限りです。

アニメとゲームが好きで、写真を送ってもらおうと眼鏡をかけた小柄な女の子で、まあいかにもオタクっぽい感じ

の子で、僕好みでした（笑）

僕もゲームはかなり好きでゲームの話で盛り上がって、女の子の方も好意を持ってくれたみたいで、比較的楽にホテルに行くことができました。この子とは合計2回会いましたが、ちょうど別の女の子と出会う機会が生まれたので、自然消滅させる形で終わりとなりました。

ちなみに余談ですが、僕が35歳くらいまでの時には、年下の女の子からのアプローチが多かったのですが、35歳を超えたあたりから年上女性からのアプローチが急激に増えるようになりました。若い女の子は年上を好み、年配女性は年下を好むのが女性の一般的な傾向なのかね……。まあ、僕の場合は、いつの時代も年下好みですけどね……。 （笑）

③ニアミスいろいろ

最後に、出会い系サイトで危うくリアルでの知り合いの女と出会ってしまいそうになった体験をいくつかご紹介しましょう。結果からお話しすると、幸いなことに今まで何とかピンチを切り抜けて、リアルでの知り合いの女と出会ってしまったことはありません。

その1 「高校の同級生の妹」

たしか1998年。僕がまだ大学生の時の話です。この当時、僕は出会い系サイトの位置づけとして純粹に彼女を見つけることを主目的としていました。

今では、よっぽど親しくしないと本名を教えあうことはないと思いますが、当時、まだインターネット黎明期でネット犯罪だのセキュリティだのうるさくなかった平和な時代だったため、普通にフルネームでメール交換したりすることが多かった時代でした。

出会い系サイトで知り合った女の子、確か、僕の1つ下の短大生だったと思う。学校のメールアドレスでしかも本名丸出しでメールしてきました。その子の名字が僕の高校の時の同級生と同じ名字で、またそれが比較的珍しい名字だったため一瞬イヤな予感がしました。そして、メール交換をしていく中でかなり近所に住んでいることが分かり、これは本当にもしかすると思って思い始めました。

別の友達にその同級生に妹がいないか尋ねたところ、1歳下に妹がいることが分かり、名前も一致したのでした。もちろん、それ以降、この子にメールすることはありませんでした。

その同級生とは特に親しくなかったのですが、親しかろうが親しくなかりょうが、妹とどうにかなるのには、僕とし

ではどうも気まずいですね・・・。

その2 「小学校の同級生」

2008年、某出会い系サイトで知り合った同年齢の子。僕の住んでいるところの隣の市に住んでいる子でした。

メール交換をしていくうちに、子供のころは、僕の家からかなり近いところに住んでいたことが分かりました。これはこれは、と思い、小学校の卒業アルバムを引っ張り出してみました。下の名前しか聞いていなかったのので、とりあえず下の名前で調べてみると、同学年にその名前の子が2人いました。

ちなみに、一人は、僕が小学生の時に好きだった同級生でした。まあ、もし、この子が、好きだった子の方だったとしても、名前も住所も偽名で教えてしまっているし会えないのですが・・・。

少々がっかりしながらも、とにかく、この子が、卒業アルバムでヒットしたどちらかであることは間違いないのでメールをやめるにしてもそこまでは突き止めたい。採れる策としては、名字を聞き出すか、もう少し詳細の住所を聞き出すかですが、名字を聞き出す方が簡単だろう

と判断し、とりあえず、親しくなるためにメール交換を続けて、ついに名字を聞き出すことができました。

好だった子じゃない方の子でした……。まあ、どうせ会う気もないし、どっちでも良かったのですけどね。

その3 「職場の同僚」

2014年、某SNSで知り合った女の子。26歳のプログラマー。同業者だけに、システム開発の話で盛り上がりました。知り合っ間もない頃は、プライバシーがある細かいことは聞かないのが暗黙のルールのようなものがあり、たとえば、名字なんかもその一つに該当するだろうと思いますが、お互いの勤務先なんかも当然聞くことはありませんでした。

しかし、メール交換していくうちにどの辺りで仕事をしているかを話していると、かなり近くで働いていることが分かりました。この時うかつにも僕は、正直に勤務先の所在地を答えてしまっていたのですが、まあ大丈夫です。この辺りはオフィス街です。IT企業だけでも大小合わせて星の数ほどあります。で、勤務先の話はこの程度で終わったのだが、この子のSNSのプロフィールのページをよく見ると、オフィス内で撮ったらしき女5人の集合写真がアップされているではないですか！しかも、見たことのある顔ばかり。そこには、ウチの社員も

いれば、派遣会社から派遣されてやってきている子もいました。僕は、結局その中の誰をメール交換しているのかまでは突き止めることはできませんでした。もちろん、ここでメール終了。社内でうかつにメアドを教えることもできなくなってしまったのでアドレスを変えました。

出合いは
どこに？



おわりに

まずは、最後までお読みいただき誠にありがとうございました。

「はじめに」でも申し上げた通り、本書では「出会い」に対するハウツーや攻略法などの記載は徹底的に省き、事実に基づいた考察や体験談に絞って執筆いたしました。

私自身も過度な「出会い厨」であり、個人的な出会いまでの手順や、攻略法などは確率しており、それをご紹介することも不可能ではありません。しかし出会いというものは人と人が織りなす行為であり、決して恋愛ゲームのような一定のパターンに従って進んでいくものではありません。

自分はどんな人間なのか？相手はどんな人間なのか？今2人を取り巻く状況はどのようなものか？等無数の条件によって出会える確率も変わってきますので、そこに決まった攻略法などはないと思います。自分自身が出会いを体験し経験を積み重ねて、やっと自分なりの攻略法が自然と身に付くのがベストだと思います。

ネットだからと言っても現実の世界の延長上で、自身のスマホやPCの向こう側にいるのも、また生身の人間なのです。これからネットで出会いを求める方においては、オンラインのネットの世界はオフラインの世界と何ら変わらないことを意識して、一定のリスクを念頭に置いて、一方で極端に恐れず利用して行ってほしいと思います。

本書では「ネットでの出会い」の歴史に触れ現在の「出会い」のある方について言及していきましたが、人類が存在する限り「出会い」は永遠に必要なものであります。出会いの方法は、科学技術の進歩と共に常に変化を繰り返しています。

近代の出会い方として、雑誌→電話→インターネット（PC）→携帯電話（ガラケー）→スマホと媒体となるものが変換していきました。今後どのような媒体が生まれ、どのような”出会い方”が生まれてくるのか楽しみでなりません。



出会いはどこに？ ～ネットでの出会いの歴史と今～

2022年3月 初版 発行

2022年8月 第2版 発行

著者 「出会い系さんまい！」管理事務局

発行者 「出会い系さんまい！」管理事務局

お問い合わせ先 info@deaiz.info

本書は著作権法上の保護を受けています。本書の一部または全部について、「出会い系さんまい！」管理事務局から文書による許諾を得ずに、いかなる方法においても無断で複写、複製することは禁じられています。